

```

<?xml version="1.0"?>
<mediawiki>
- <page>
  <title>同志社大学</title>
  <ns>0</ns>
  <id>255425</id>
- <revision>
  <id>89264634</id>
  <parentid>89151501</parentid>
  <timestamp>2022-04-29T09:03:50Z</timestamp>
- <contributor>
  <username>Baudanbau20</username>
  <id>1657559</id>
</contributor>
<minor/>
<comment>/ * 同窓会 * / 見出しの階層違反</comment>
<model>wikitext</model>
<format>text/x-wiki</format>
<text xml:space="preserve" bytes="152465">{{大学|国=日本|大学名=同志社大学|ふりがな=どうししゃだいがく|英称=[[:en:Doshisha University|Doshisha University]]|ロゴ=[[File:Doshisha-emblem.jpg|150px]]|画像=同志社大学今出川キャンパス - panoramio.jpg|画像説明=同志社大学 今出川キャンパス<br/>{{Maplink2|frame=yes|plain=yes|type=point|zoom=14|frame-align=center|frame-width=270|marker=college}}<br/>{{Right|{{location map|Japan|Kyoto#Japan|width=200}}}}|pxl=250px|大学設置年=1920年|創立年=1875年|学校種別=私立|設置者=[[学校法人同志社]]|本部所在地=[[京都府]][[京都市]][[上京区]][[今出川通]][[烏丸通|烏丸]]東入玄武町601番地|緯度=35|緯度分=1|緯度秒=47.1|経度=135|経度分=45|経度秒=38.7|キャンパス=今出川(京都府京都市上京区)<br/>新町(京都府京都市上京区)<br/>室町(京都府京都市上京区)<br/>京田辺(京都府[[京田辺市]])<br/>学研都市(京都府[[津川市]])<br/>多々羅(京都府京田辺市)<br/>烏丸(京都府京都市上京区)|学部=[[同志社大学神学部|神学部]]<br/>[[同志社大学文学部|文学部]]<br/>[[同志社大学社会学部|社会学部]]<br/>[[同志社大学法学部|法学部]]<br/>[[同志社大学経済学部|経済学部]]<br/>[[同志社大学商学部|商学部]]<br/>[[同志社大学政策学部|政策学部]]<br/>[[同志社大学文化情報学部|文化情報学部]]<br/>[[同志社大学理工学部|理工学部]]<br/>[[同志社大学大学院生命医科学研究科・生命医科学部|生命医科学部]]<br/>[[同志社大学スポーツ健康科学部|スポーツ健康科学部]]<br/>[[同志社大学心理学部|心理学部]]<br/>[[同志社大学グローバル・コミュニケーション学部|グローバル地域文化学部|研究科=神学研究科<br/>[[同志社大学大学院文学研究科・文学部|文学研究科]]<br/>[[同志社大学大学院社会学研究科・社会学部|社会学研究科]]<br/>[[同志社大学大学院法学研究科・法学部|法学研究科]]<br/>[[同志社大学大学院経済学研究科・経済学部|経済学研究科]]<br/>[[同志社大学商学研究科<br/>総合政策科学研究科<br/>文化情報学研究科<br/>理工学研究科<br/>[[同志社大学大学院生命医科学研究科・生命医科学部|生命医科学研究科]]<br/>[[同志社大学スポーツ健康科学研究科<br/>心理学研究科<br/>グローバル・スタディーズ研究科<br/>[[同志社大学法学部|司法研究科]]<br/>[[同志社大学ビジネス研究科<br/>脳科学研究科|ウェブсайт=https://www.doshisha.ac.jp/}}|TOC limit|4}}==概観==大学全体==[[画像:Jo Nijima.jpg|140px|thumb|left|新島襄]]同志社大学の淵源は、1875年(明治8年)、[[京都]]・[[山城国|山城]]の地に開かれた「官許・[[同志社英学校]]」という「私塾」であり、[[明治六大教育家|明治の六大教育家]]の一人である[[プロテスタント|キリスト新教]][[改革派教会|改革教会]][[会衆派教会|組合派]][[カルヴァン主義|ビクトリー主義]][[プロテスタント]][[会衆派教会|会衆派]]の[[ピューリタン|清教徒]]だった[[新島襄]]が創設した学び舎である<ref name="into">[https://www.doshisha.ac.jp/information/history/neesima/neesima.html 建学の精神と新島襄 (新島襄と同志社)] | 大学紹介 | 同志社大学] 2019年2月6日閲覧。</ref>。1920年(大正9年)に日本の私立大学では最も古い段階で[[大学令]]に基づく大学となった(詳しくは[[旧制大学]]参照)。京都府内に2つの校地を有し、現在は14学部・16研究科(大学院)、学生およそ3万人を擁する大規模大学である。同志社英学校として設立された経緯から、[[国際化社会|国際化]]を積極的に推進している。[[文部科学省]]の定める[[国際化拠点整備事業|グローバル30]]<ref>{{Cite web|title=事後評価 | 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 | 日本学術振興会|url=https://www.jsps.go.jp/j-kokusaika/jigo_kekka.html|website=www.jsps.go.jp|accessdate=2019-04-24}}</ref>(「国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)」)に採択された13大学の一角を担い、事後評価として最高評価(S)を得ている。米[[アマースト大学]]をはじめとする13の[[リベラル・アーツ・カレッジ]]が1972年本学に設置した[[Associated Kyoto Program]](AKP)という機関が存在し<ref>http://www.associatedkyotoprogram.org/akp-at-doshisha/</ref>、およそ1,450人の留学生を輩出している<ref>https://www.doshisha.ac.jp/international/from_abroad/study/akp.html</ref>。また、米[[スタンフォード大学]]が運営するセンターとして1990年には学内に[[スタンフォード日本センター]]が<ref>{{Cite web|title=About the Kyoto Program {{!}} Bing Overseas Studies Program {{!}} Stanford Undergrad|url=https://undergrad.stanford.edu/programs/bosp/explore/kyoto/about-kyoto-program|website=undergrad.stanford.edu|accessdate=2019-06-21}}</ref>、1989年には米[[アイビー・リーグ|アイビーリーグ]]の大学など14の大学が同志社を拠点として日本文化を学ぶ[[京都アメリカ大学コンソーシアム]](KCJS)がそれぞれ設置された<ref>{{Cite web|title=KCJS:Kyoto Consortium for Japanese Studies|url=http://www.kcjs.jp/index.html|website=www.kcjs.jp|accessdate=2019-06-21}}</ref>。スタンフォード日本センターでは、AKP、KCJSと別に[[Stanford Program in Kyoto]]を運営している。[[ファイル:明治後期の同志社理事団.png|thumb|260px|明治後期の同志社理事団<br>前列左から[[浮田和民]]、[[徳富蘇峰]]、[[小崎弘道]]、[[原田助]]、[[ジェローム・デヴィス]]J.D.デヴィス]]、[[宮川経輝]]、[[湯浅治郎]]、後列左から高木貞衛、[[牧野虎次]]、[[ダニエル・クロスビー・グリーン]]D.C.グリーン]]、川本恂蔵、[[古谷久綱]]]] なお、一般に[[校歌]]として認知されている同志社カレッジ・ソング (Doshisha College Song) は、前述したアイビーリーグの各校である[[イエール大学]]の校歌[[ライオン・カレッジ・イエール]]([[:en:Bright College Years|Bright College Years]])と旋律を同じくする。ただ、イエール大学校歌が1881年に書かれたのに対し、同志社大学は1908年である<ref>{{Cite web|title=Cyber学長室(学長からの回答) | 大学紹介 | 同志社大学|url=https://www.doshisha.ac.jp/information/overview/president/question/answer35.html|website=www.doshisha.ac.jp|accessdate=2020-07-21}}</ref>。この旋律は、元は[[ドイツ]]の軍歌である「[[ラインの守りラインの護り]]」からの借用である(また、日本語の校歌として「大学歌」がべつに制定されており、こちらが[[北原白秋]]作詞、[[山田耕筰]]作曲のものである)。米国以外の大学との交流も盛んで、[[ヘーゲル]]や[[ケプラー]]などを輩出したドイツの[[エバーハルト・カール大学|テュービンゲン|テュービンゲン大学]]は1993年同志社大学にテュービンゲン大学同志社日本研究センターを設置<ref>{{Cite web|title=本学に留学拠点を置く海外の大学(テュービンゲン大学同志社日本語センター) | 国際交流・留学 | 同志社大学|url=https://www.doshisha.ac.jp/international/from_abroad/study/tub.html|website=www.doshisha.ac.jp|accessdate=2019-06-21}}</ref><ref>{{Cite web|title=Kyoto-Sentaa {{!}} University of Tübingen|url=https://uni-tuebingen.de/jp/fakultaeten/philosophische-fakultaet/fachbereiche/aoi/japanologie/kyoto-zentrum/|website=uni-tuebingen.de|accessdate=2019-06-21}}</ref>。[[ヨーロッパ]]の大学が日本の大学に単独のセンターを持つのは現在のところテュービンゲン大学のみである。また近年、同志社大学もEUキャンパスをテュービンゲン大学に設置しヨーロッパでの研究活動の拠点としている<ref>{{Cite web|title=同志社大学、ドイツに初の海外キャンパス「EUキャンパス」設置|url=https://resemom.jp/article/2018/03/01/43219.html|website=リセマム|accessdate=2019-06-21|language=ja}}</ref>。大学間協定締結大学数は48か国215大学、学部・研究科間協定締結大学数は42か国166機関である(ともに2021年9月)<ref>[https://international.doshisha.ac.jp/agreement/overview.html 海外協定大学一覧]</ref>。また、学生交換協定は37か国(地域)176大学と締結している(2022年3月)<ref>[https://international.doshisha.ac.jp/study_abroad_program/exchange_program/exchange_program.html 外国協定大学派遣留学生制度]</ref>。大学の前身である同志社英学校を創るにあたり新島は、「[[アメリカ合衆国]]に在る組合派系の海外伝道団体「[[アメリカン・ボード]]」の力添えを得た<ref>[http://www.christian-center.jp/dsweek/05sau/t_1107_2.html 大谷實(同志社総長)「同志社の将来」」。http://www.christian-center.jp/ 同志社大学キリスト教文化センター。2018年4月28日閲覧。</ref>。ただし同志社大学は[[キリスト教]]を広めることそのものを主な狙いとする大学ではなく、「(キリスト教)ではなく」[[キリスト教主義学校|「キリスト教主義」の学校]]であると説明している<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/student_life/christian/christian.html キリスト教主義に触れるプログラム | 学生生活

```

| 同志社大学</ref>。――財政関係―― 株式会社[[格付投資情報センター]](R&I)より、経営状況に関して「AA+(ダブルAプラス)、方向性は安定的」との格付を受けている(なお、日本の学校法人全体では他に早稲田大学が同一評価を受けている)。しかし大学によれば、本格付けの取得・維持は学外からの資金調達を目的としたものではない([http://www.doshisha.ed.jp/information/info_20110520.html]。学内の予算は、収入が計432億4100万円前後であり、支出は計431億8900万円であると公表されている(2019年度)[https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-25/124887/file/yosan2019.pdf]。――建学の精神と教育理念―― 同志社の建学精神はキリスト教精神に基づく「良心教育」である。それは、「[[同志社大学設立の旨意]]」において示されているとおり、新島襄は建学にあたり「良心を手腕に運用する人物」の育成を掲げた。知識教育に偏ることのないよう、[[キリスト教]]に基づく「[[徳育]]」を並行して進めることで、「[[良心]]」の全身に充満した人々を輩出したいと願ったのである<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/information/history/policy.html] 同志社大学設立の旨意 | 大学紹介 | 同志社大学 2019年10月22日閲覧</ref>。同志社大学では、「一国の良心」ともいべき人物を養成するために始まった同志社の教育をいまに受け継ぎ、実現するためにも、「キリスト教主義」・「自由主義」・「国際主義」を同志社大学における教育理念と定めて、これらの理念に基づく教育活動を実践している<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/information/history/educational_ideal.html] 良心教育と教育理念 | 大学紹介 | 同志社大学 2019年10月22日閲覧</ref>。――沿革―― 略歴―― 1875年に[[新島襄]]が創立した[[同志社英学校]]を前身とする大学。1920年、西日本の私立大学で初めての[[大学令]]に基づく[[旧制大学]]となった。――年表―― (年表節の主要な出典は公式サイト<ref>{{Cite web |url=https://www.doshisha.ac.jp/information/history/chronology.html |title=年表 |}} 大学紹介 |publisher=同志社大学 |accessdate=2019-04-26</ref><!-- 別の出典で記事を追加するには出典をその追加記事の後に脚注を導入して付け加えて下さい。-->
 =====明治=====< gallery widths="200px" heights="140px" perrow="3">
 The first graduation of Doshisha.jpg[[同志社英学校]]最初の卒業生(1879年)
 Doshisha Campus 1886.jpg|1886年の今出川校地
 専門学校令による同志社大学開校式.png[[専門学校令]]による同志社大学開校式(1912年)
 </gallery>
 {class=wikitable style="font-size:small"!年!出来事!
 |style="white-space:nowrap"|1874年
|[[明治]]7年)|
 *10月 - [[新島襄]], [[アメリカン・ボード]]第65年会 ([[パーモント州]] [[ラトランド (パーモント州)|ラットランド]])に出席し、日本でのキリスト教主義大学設立の意志を表明。5千ドルの寄付を得る<ref name=":0">同志社創立100周年記念写真集編集委員会編『同志社―その100年のあゆみ―』1975年</ref>。
 *11月 - 新島襄帰国。|-
 |style="white-space:nowrap"|1875年|
 *1月 - 新島襄、大阪での学校設立を目指すも府知事[[渡邊昇]]の反対により断念。
 *4月 - 新島京都に入り、府知事[[榎村正直]]、府顧問[[山本覚馬]]に学校設立を訴えて賛同を得る。
 *8月 - 新島・山本両名の結社により[[学校法人同志社|同志社]]と命名し、「私塾開業願」を[[京都府知事]]宛に提出(9月4日認可)<ref>『同志社九十年小史』37頁</ref>。
 *11月 - [[京都|京都上京区]]寺町通丸太町上ル松蔭町の旧高松邸を仮校舎として官許[[同志社英学校]]を開校する<ref name=":0">。教員2人(新島と[[ジェローム・デヴィス|J.D.デヴィス]])、生徒8人。|-
 |style="white-space:nowrap"|1876年|
 *9月 - 今出川校地(旧[[薩摩藩]]邸跡)に移転、新築校舎2棟落成。
 *[[熊本バンド]]約35人が入学。英学校に余科([[神学部|神学科]])を併置。|-
 |style="white-space:nowrap"|1877年|
 *4月 - [[女紅場#同志社分校女紅場|同志社分校女紅場]]を開設(同年9月同志社女学校と改称。現・[[同志社女子大学]])。|-
 |style="white-space:nowrap"|1879年|
 *6月 - 同志社英学校第1回卒業式を挙行<ref group="注">最初の卒業生は[[市原盛宏]]、[[浮田和民]]、[[海老名弾正]]、[[岡田松生]]、[[加藤勇次郎]]、[[金森通倫]]、[[小崎弘道]]、[[下村孝太郎]]、[[不破唯次郎]]、[[宮川経輝]]、[[森田久萬人]]、[[山崎為徳]]、[[横井時雄]]、[[吉田作弥]]、[[和田正修]]の15名である(『同志社九十年小史』642頁)</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1880年|
 *4月 - 朝礼のとき生徒の校則違反に責任を感じ、校長自ら鞭を打つ(自責の杖事件)<ref name=":0">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1883年|
 *2月 - 「同志社社則」4か条を制定し、社員を5名(新島、山本、[[横井時雄]]、[[松山高吉]]、[[中村栄助]])とする<ref>『同志社九十年小史』40頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1884年|
 *5月 - 「明治専門学校設立旨趣」および「同志社英学校設立始末」を印刷頒布。
 *9月 - 彰栄館竣工。|-
 |style="white-space:nowrap"|1885年|
 *12月 - 校友会を結成<ref name="kouyukai">{{Cite web |url=https://www.doshisha-alumni.gr.jp/kouyukai/hystory.html |title=歴史 of 同志社校友会 |archiveurl=https://archive.ph/boK3r |archivedate=2021-03-12 |accessdate=2021-03-12}}</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1886年|
 *6月 - 礼拝堂(チャペル)竣工、献堂式を挙行。
 *12月 - 英学校余科を廃し、神学専門科(英語神学科・邦語神学科)を設置。
 *仙台に[[東華学校]]を設立(1892年廃校)。|-
 |style="white-space:nowrap"|1887年|
 *3月 - 『同志社文学雑誌』創刊(1895年の87号まで)<ref group="注">誌名は度々変更があり、最終的に『同志社文学』となった(『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、934頁)</ref>。
 *8月 - 同志社予備学校設置(明治29年廃止)<ref name=":0">。
 *11月 - 書籍館(現・有終館)竣工。[[医学校]]構想の一環として、同志社病院・[[京都看護婦学校]]を創設。|-
 |style="white-space:nowrap"|1888年|
 *2月 - [[小崎弘道]]、[[宮川経輝]]、[[湯浅治郎]]、[[大沢善助]]を社員に加える<ref>『同志社九十年小史』41頁</ref>。
 *6月 - 同志社英学校と同志社予備学校を併せて同志社学院(予備学部、普通学部、神学部)設置。
 *9月 - 「同志社通則」36か条を制定。
 *11月 - 「[[同志社大学設立の旨意]]」を全国の主要な[[雑誌]]・[[新聞]]に発表。|-
 |style="white-space:nowrap"|1889年|
 *9月 - 同志社学院を同志社予備学校、同志社普通学校、同志社神学校と改称。
 *11月 - 新島襄が前橋遊説中に倒れ、12月末[[大磯町|大磯]]の百足屋旅館で療養するも病勢悪化<ref name=":0">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1890年|
 *1月23日 - 新島襄、急性腹膜炎のため永眠。京都東山の若王子山上に葬られる<ref name=":0">。
 *7月 - J. N. ハリスの理科教育寄付金10万ドルにより理化学館竣工、
 *9月 - 同志社波理須(ハリス)理化学校が開校。|-
 |style="white-space:nowrap"|1891年|
 *5月 - 『同志社神学叢書』刊行(1895年の第8輯まで)<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、932頁</ref>。
 *9月 - [[同志社政法学校]]開校。政治学科と理財科を置く。|-
 |style="white-space:nowrap"|1892年|
 *3月 - [[小崎弘道]]が第2代社長兼校長に就任<ref name=":0">。
 *6月 - 同志社波理須理化学校を同志社波理須理科学学校と改称。|-
 |style="white-space:nowrap"|1893年|
 *6月 - 神学校内に宗教博物館を設置<ref>1919年ごろ廃止(『同志社九十年小史』313頁)</ref>。
 *10月 - 同志社徽章を制定。
 *11月 - 神学館(現・クラーク記念館)竣工。
 *新島記念文庫開設<ref name="library1875-1919">[https://library.doshisha.ac.jp/guide/outline/history/1875.html] 図書館のあゆみ(同志社創立〜初代図書館(有終館)時代 1875-1919)</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1895年|
 *10月 - キリスト教義と教育勅語の精神との全国的論争が同志社内部にも波及し、宣教師団と日本人教師団との内紛に拡大<ref name=":0">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1896年|
 *4月 - 同志社普通学校を同志社高等普通学校と改称。
 *8月 - [[アメリカン・ボード]]との関係悪化により外国人宣教師団が同志社から引き上げる<ref>『同志社九十年小史』75-79頁</ref>(1900年復帰)<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、933頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1897年|
 *4月 - [[横井時雄]]が第3代社長に就任<ref name=":1">同志社創立100周年記念写真集編集委員会編『同志社―その100年のあゆみ―』1975年、54頁</ref>。
 *9月 - 同志社高等普通学校を同志社高等学部文科学校、同志社政法学校を同志社高等学部政法学校、同志社波理須理科学校を同志社高等学部波理須理科学学校と改称。|-
 |style="white-space:nowrap"|1898年|
 *2月 - 徴兵猶予の特典を得るために[[同志社綱領]]を改訂し、校友・関係者の大反対を招き紛糾。
 *12月 - 混乱の責任を取って横井社長以下社員総辞職<ref name=":1">。
 *[[安部磯雄]]らにより[[同志社生活協同組合|同志社消費組合]]結成<ref group="注">しかし、学校わきの2軒の商店との[[価格競争]]に敗れ、わずか1年ほどで解散せざるを得なくなったという(井口隆史『安部磯雄の生涯―質素な生活 高遠な理想』[[早稲田大学|早稲田]]、2011年、101頁)</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1899年|
 *2月 - 同志社綱領復活<ref>『同志社九十年小史』79-83頁</ref>。
 *3月 - [[学校法人同志社|同志社財団]][[寄附行為|寄付行為]]制定。社員会を理事会和改称<ref>『同志社九十年小史』89-90頁</ref>。
 *7月 - [[西原清東]]が第4代社長に就任<ref name=":1">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1900年|
 *7月 - 外国社友選出理事としてJ.D.デヴィス、[[ダニエル・クロスビー・グリーン|D.C.グリーン]]、G.E.アルブレヒトが就任<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、933頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1902年|
 *3月 - [[片岡健吉]]が第5代社長兼校長に就任(翌年9月永眠)<ref name=":1">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1904年|
 *3月10日 - [[専門学校令]]による同志社専門学校を設置(同志社高等学部文科学校と同志社高等学部波理須理科学校を統合)。同志社高等学部政法学校廃止。
 *3月15日 - 専門学校令による同志社神学校を設置。
 *3月29日 - [[下村孝太郎]]が第6代社長兼校長に就任<ref name=":1">。|-
 |style="white-space:nowrap"|1905年|
 *1月 - 『同志社新聞』創刊(のち『同志社時報』と改題。1927年の246号まで)<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、932頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1906年|
 *5月 - 同志社病院・京都看護婦学校閉館。|-
 |style="white-space:nowrap"|1907年|
 *1月 - [[原田助]]が社長に就任、3月校長を兼任<ref name=":1">。
 *4月 - 同志社維持会を結成。
 *5月 - 故・[[新島襄]]、帝国教育会から[[明治六大教育家|六大教育家]]の一人として顕彰される。|-
 |style="white-space:nowrap"|1908年|
 *この頃から[[貝聿彩色|紫]]の[[スクールカラー]]が使われ始める<ref name="90_150">『同志社九十年小史』150頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1909年|
 *4月 - 同志社カレッジソング制定<ref>同志社『https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1466055/28 同志社一瞥』1935年、12頁</ref>。
 *12月 - 帝国教育会から「教育上功績上顕著なる私学の一」として[[慶應義塾大学|慶應]]、[[早稲田大学|早稲田]]、[[明治大学|明治]]、[[中央大学|中央]]、[[専修大学|専修]]とともに表彰される<ref>『同志社九十年小史』655頁</ref>。|-
 |style="white-space:nowrap"|1912年|
 *2月 - 専門学校と神学校を合併し大学と

改称の件認可。*4月 - [[専門学校法令]]による同志社大学を開設(予科1年半、本科3年)。神学部・政治経済部・英文科を設置<ref>[https://www.econ.doshisha.ac.jp/history/history.html 歴史(歴史・沿革)] | 同志社大学 経済学部/経済学研究科]</ref>。|-} =====大正===== gallery widths="200px" heights="140px" perrow="3"> 大正初期の今出川キャンパス.jpg|大正初期の今出川校地 六大学昇格決定(『東京朝日新聞』1920年4月2日付朝刊3面).png|同志社大学など6校の昇格決定を報じる『東京朝日新聞』(1920年4月2日付朝刊3面) 大正15年冬の同志社大学ラグビー部.png|1926年冬の[[同志社大学ラグビー部|ラグビー部]]</gallery> {class=wikitable style="font-size:small"!}年!!出来事|-|style="white-space:nowrap"|1913年
 ([[大正]]2年) *10月 - 英文科卒業生に中等教員無試験合格資格を認定<ref>『同志社九十年小史』657頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1916年 *1月 - 学長を置き、社長がこれを兼任する(翌年兼任制を廃止)。*3月 - 大学教室致遠館竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1917年 *7月 - 図書館に愛山文庫([[大原孫三郎]] の寄贈)を設置<ref>[https://library.doshisha.ac.jp/ir/digital/aizan_bunko/commentary.html 愛山文庫(解説)] | 貴重書デジタル・アーカイブ | 同志社大学 学術リポジトリ]</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1918年 *1月 - 予科の[[修業年限]]を2年に延長する<ref>『同志社九十年小史』299頁</ref>。*6月 - 社長を[[総長]]と改称する。*10月 - 本社機関を本部、大学、中学、女学校、図書館の五部制とする。|-|style="white-space:nowrap"|1919年 *1月 - 原田総長辞任。[[中村栄助]]が総長事務取扱となる。*2月 - [[安部磯雄]]を次期総長に推薦するも拒絶される<ref group="注">その後も候補者選考は難航し、翌月には[[浮田和民]]とも交渉したが失敗(『同志社九十年小史』108頁)。</ref>。*4月 - 英文科を文学部、政治経済部を法学部と改称<ref>『同志社九十年小史』659頁</ref>。*9月 - [[大学令]]による同志社大学設立申請書を文部大臣に提出。|-|style="white-space:nowrap"|1920年 *3月 - 『同志社論叢』創刊<ref group="注">『同志社論叢』は1949年1月の第91号をもって廃刊となり、以後は『同志社法学』『経済学論叢』へと発展的解消をげた(『同志社百年史』通史編一、931-932頁)。</ref>。*4月1日 - [[海老名弾正]]が第8代総長に就任<ref name="1" />。*4月15日 - [[キリスト教主義学校キリスト教系]]の私学で初めて大学令に基づいて[[旧制大学]]に昇格。同志社大学[[同志社大学文学部・文学部]](神学科・英文学科)、[[同志社大学法学部・法学部]](政治学科・経済学科)、[[大学院]]、[[大学予科・予科]](3年制)を設置<ref group="注">当初は法・文・神の3学部設置を目指したものの、[[神学部]]については文部省の認可を得られず、文学部に神学科を設置するにとどまった(『同志社九十年小史』109頁)。</ref>。*5月 - 2代目図書館(現・啓明館本館)竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1921年 *12月 - <small>旧</small>弘風館(予科校舎)竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1922年 *3月 - [[同志社女子大学|同志社女学校専門学部]]英文科卒業生は同志社大学各学部に入学資格あるものと指定される(翌年女子学生4名入学)<ref>[https://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/publicity/publication/125_years/chapter2_2 専門学部の充実:同志社女子大学]</ref>。*4月 - 専門学校令による大学を同志社専門学校と改称再編し、神学部、英語師範部、高等商業部、政治経済部を設置<ref group="注">英語師範部と政治経済部の開校は人員と設備の関係で1927年まで見送られた。</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1923年 *2月 - 法学部法律学科設立認可<ref>『同志社九十年小史』662頁</ref>。*3月 - <small>旧</small>徳照館(高商部校舎)竣工。*11月 - 『基督教研究』創刊<ref>[https://theo.doshisha.ac.jp/education_research/christianity_research.html 基督教研究 | 教育・研究 | 同志社大学 神学部 / 神学研究科]</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1925年 *11月 - 創立50周年記念式挙行<ref>『同志社九十年小史』663頁</ref>。*12月 - [[京都学連事件]]起こる。|-|style="white-space:nowrap"|1926年 *4月 - 文学部神学科に神学専攻、倫理学専攻を設置。|-} =====昭和(戦前)===== gallery widths="200px" heights="140px" perrow="3"> 同志社大学学生会購買部(1927年頃).jpg|1927年頃の購買部 Doshisha Imadegawa Ryoshin-Hi.jpg|良心碑 戦闘機同志社号 </gallery> {class=wikitable style="font-size:small"!}年!!出来事|-|style="white-space:nowrap"|1927年
 ([[昭和]]2年) *2月 - 文学部哲学科設立認可。*4月 - 専門学校英語師範部、政治経済部開校<ref>『同志社九十年小史』664頁</ref>。[[同志社生活協同組合|同志社労働者ミッション]]設立<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、934頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1928年 *1月 - [[学位]位規程]]認可。*11月 - 有終館出火事件により総長・理事・監事総辞職<ref>『同志社九十年小史』112頁</ref><ref name="1" />。中村栄助が総長事務取扱となる。|-|style="white-space:nowrap"|1929年 *4月 - 同志社専門学校高等商業部が[[愛宕郡]] [[岩倉村 (京都府)|岩倉村]]に移転。*4月 - 海老名前総長の復職と理事会の醜聞一掃を求める学生運動発生(〜5月)<ref>[[菊川忠雄]] [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1062476/232 学生社会運動史] 海口書店、1947年、450-451頁</ref>。*11月 - [[大工原銀太郎]](前九州帝大総長)が第9代総長に就任。|-|style="white-space:nowrap"|1930年 *12月 - 高等商業部が[[同志社高等商業学校]]として独立。|-<!-- 大学予科は1933年まで3年制です。--><!-- [[colspan="2"|p>"1930年の同志社の組織図"</p>[[画像:Doshisha1930.png|717px]]</p>-->|style="white-space:nowrap"|1931年 *4月 - 文学部神学科に社会事業学専攻を設置<ref>『同志社九十年小史』668頁</ref>。*9月 - [[関西六大学野球連盟 (旧連盟)|関西六大学野球連盟]]結成<ref>朝日新聞社 [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1118438/49 運動年鑑 昭和七年度] 1932年、40頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1932年 *2月 - 栄光館落成。*3月 - アーモスト館竣工<ref name="buildings_imadegawa">。[https://www.doshisha.ac.jp/information/facility/buildings/imadegawa.html 建物紹介(今出川校地)] | 大学紹介 | 同志社大学</ref>。*5月 - 同志社大学社会事業後援会創立<ref>『同志社九十年小史』670頁</ref>。*10月 - 神学教育協力委員会創立。*11月 - 新島会館竣工<ref name="kouyukai">。|-|style="white-space:nowrap"|1933年 *2月 - 大学予科を2年制と3年制の2部制とする<ref name="90_114">『同志社九十年小史』114頁</ref>。*2月 - 専門学校英語師範部を1部・2部制とする<ref name="90_114">。*2月 - 専門学校政治経済部を法経部と改称<ref name="90_114">。|-|style="white-space:nowrap"|1935年 *2月 - [[湯浅八郎]]が第10代総長に就任。*6月 - 同志社高商で[[神棚事件]]起こる<ref>[https://www.doshisha-kendo.com/about/history/ 剣道部の歴史 | 同志社大学体育会 剣道部] 2019年7月3日閲覧</ref><ref>[https://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/publicity/publication/125_years/chapter3_1 同志社女学校の発展と時代の逆風] 2019年7月3日閲覧</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1936年 *1月 - [[野村重臣|国体明徴論文掲載拒否事件]]から法学部内で左右両派の対立激化。|-|style="white-space:nowrap"|1937年 *2月 - 「同志社教育綱領」を発表<ref>『同志社九十年小史』12-13頁</ref>。*3月 - 専門学校法経部を法律経済部と改称し、英語師範部2部と神学科廃止<ref>『同志社百年史』通史編二、1151頁</ref>(文学部神学科は存続)<ref>『同志社九十年小史』325-326頁</ref>。*7月 - 予科学生によるチャペル籠城事件起こる<ref>同志社予科の学生突如籠城 扉を閉じて外部と遮断(『大阪毎日新聞』1937年7月6日)</ref>。*12月 - [[新村猛]]・[[真下信一]]両教授の[[治安維持法]]違反事件を受け、湯浅総長辞任<ref name="1">。|-|style="white-space:nowrap"|1938年 *7月 - [[牧野虎次]]が総長事務取扱に就任(1941年7月より第11代総長)<ref name="1">。*10月 - [[泰安殿]]を設置(戦後解体)。|-|style="white-space:nowrap"|1939年 *3月 - 専門学校英語師範部を高等英語部と改称<ref>『同志社百年史』通史編二、1152頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1940年 *4月 - 文学部哲学科倫理学および教育学専攻を倫理学、教育学専攻に分割。*7月 - 同志社東亜研究所を設置<ref>『同志社百年史』通史編二、1195-1197頁</ref>。*11月 - 有終館前の中庭に良心碑を建立。|-|style="white-space:nowrap"|1941年 *2月 - 学生会を解散し、大学修練団を結成。*3月 - [[日米関係]]悪化により外国人数員が同志社から引き上げる。*4月 - 文学部(神学科、英文学科、哲学科)を神学科(神学専攻)、文化学科(哲学倫理学、心理学、英語英文学、文芸学、厚生学専攻)に改制。*9月 - 大学報国隊を結成。|-|style="white-space:nowrap"|1942年 *4月 - アーモスト館などの英語名の建物を日本名に変更(戦後旧称に戻す)。*11月 - 池田庄太郎の寄付による新島遺品庫竣工<ref name="1">。|-|style="white-space:nowrap"|1943年 *2月 - 同志社大学神学教育後援会を結成<ref>『同志社九十年小史』328-329頁</ref>。*4月 - 戦前最後の[[同立戦]]を開催<ref>[http://www.ritsumei.ac.jp/archives/column/article.html?id=62 <懐かしみの立命館> <戦前「最後の同立戦」-立命館ある日あの時</ref>。*6月 - 文学部神学科が[[日本西部神学校]]への合流を求められるもこれを拒否<ref>中村敏 [[日本プロテスタント神学校史]]のいちのことば 2013年、86-88頁</ref>。*11月 - 出陣学生徒連長久祈願章に仕行会([[平安神宮]])に参加<ref>『京都新聞』1943年11月22日朝刊</ref>。*戦闘機同志社号を軍に献納<ref>『同志社九十年小史』120頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1944年 *4月 - 同志社工業専門学校を設置し、電気通信科、機械科、化学工業科を設置。*4月 - 同志社専門学校高等英語部と法律経済部を統合し同志社外事専門学校設立。*4月 - 同志社高等商業学校を同志社経済専門学校と改称。*8月 - 同志社大学研究所(現・人文科学研究所)設置。*10月 - 法文学部(神・厚生・法経の3学科)1学部1部に縮小。|-|style="white-space:nowrap"|1945年 *同志社経専が今出川に一時移転(終戦後岩倉に戻る)<ref>『同志社九十年小史』120頁</ref>。*8月 - 戦戦により[[学徒勤労動員]]解除。|-} =====昭和(戦後)===== gallery widths="200px" heights="140px" perrow="3"> Doshisha ImadegawaLibrary.JPG|今出川図書館 Doshisha-Hakuenkan.JPG|博遠館 Davis Memorial Auditorium.JPG|デイヴィス記念館 </gallery> {class=wikitable style="font-size:small"!}年!!出来事|-|style="white-space:nowrap"|1946年 *4月 - 法学部を法経学部と文学部に再分離。厚生学科は文学部社会科学科へ改組。*10月 - 図書館学講習所を開設。

四大学]]学長懇談会を結成<ref>関西大学百年史編集委員会『関西大学百年史』通史編上巻、1986年、916-917頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1948年|*4月-[[新制大学]]開校(総長・[[湯浅八郎]])、4学部([[同志社大学神学部|神学部]])・[[同志社大学文学部|文学部]])・[[同志社大学法学部|法学部]])・[[同志社大学経済学部|経済学部]])を開設。|-|style="white-space:nowrap"|1949年|*4月-商学部・[[同志社大学理工学部|工学部]]を開設、6学部体制となる。同志社神大が今出川に移転。*7月-旧制神学部に神学博士の学位論文審査権を認可<ref>『同志社九十年小史』332頁</ref>。*日本の大学では初となる[[点字]]での入試を開始。*校友会発足。|-|style="white-space:nowrap"|1950年|*4月-大学院修士課程、神・文・法・経済・商各研究科を開設。*4月-[[同志社大学短期大学部|短期大学部]](夜間2年制)英語・商・経・工各学科を開設。*4月-大学会計の乱脈に端を発する学生運動が起こる(6月湯浅総長辞職)<ref>『同志社百年史』通史編二、1315-1316頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1951年|*3月-大学教養学部(一般教育課程)を廃止。*4月-学校組織を[[財団法人]]から[[学校法人]]に改める<ref>『同志社九十年小史』49-50頁</ref>。*8月-[[大塚節治]]が第13代総長に就任<ref name="2">同志社創立100周年記念写真集編集委員会編『同志社―その100年のあゆみ―』1975年、55頁。</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1952年|*3月-同志社各専門学校(経専・工専・外専)を廃止。*6月-旧華族会館を買収、大学院校舎とする(1972年解体)<ref>[http://hmuseum.doshisha.ac.jp/html/research/report/report2017_18/2017keshinkan.pdf 啓真館(旧華族会館)車寄獅子口について-同志社大学 歴史資料館]</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1953年|*4月-大学院博士課程(神・文・法・経の各学研究科)設置。*4月-明徳館竣工。*ハーバード・エンチン研究所より助成をうけ同志社東方文化研究室を設置<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1954年|*4月-短期大学部を発展的に解消し、文・法・経済・商・工各学部を[[夜間学部2部]](4年制)を設置。*8月-新島先生海外渡航記念碑(函館市)の除幕式を挙行。*[徳富蘇峰]、山中湖畔の双宜荘を同志社に寄贈<ref>『同志社九十年小史』679頁</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1955年|*4月-工学研究科修士課程開設。|-|style="white-space:nowrap"|1956年|*2月-キリスト教社会問題研究会を設置<ref>『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、933-934頁</ref>。*5月-寧静館竣工<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1957年|*3月-同志社大学研究所を同志社大学人文科学研究所へ改称。*4月-大学院博士課程(商学研究科、工学研究科、電気工学、機械工学専攻)設置<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1958年|*3月-ロックフェラー財団の援助によりアメリカ研究所開設。|-|style="white-space:nowrap"|1959年|*3月-弘風館全館竣工<ref name="2">。*4月-[[ジーエス・ユアサコーポレーション|日本電池]]新町工場跡を買収し、旧社屋を臨光館と命名。理工学研究科開設。*4月-大学院博士課程(工学研究科、工業化学専攻)設置。|-|style="white-space:nowrap"|1960年|*3月-旧制同志社大学廃止。|-|style="white-space:nowrap"|1961年|*創立90周年記念事業計画実施のため15億円の募金募債に着手、以来数年にわたる活動の結果、13億円余を達成<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1962年|*1月-尋真館竣工(新町)。*4月-工学部電気学科を電気工学科、機械学科を機械工学科と改称。*5月-アーモスト館ゲストハウス 竣工。*12月-大学大成寮竣工<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1963年|*4月-工学部に電子工学科、機械工学第二学科、化学工学科を増設。工学部第2部廃止。*4月-社史史料編集所を設置。*7月-現<small>神学館竣工。それまでの神学館をクラーク記念館と改称<ref>『同志社九十年小史』341頁</ref>。*7月-礼拝堂が国の[[重要文化財]]に指定される<ref name="0">。*11月-[[住谷悦治]]が第14代総長に就任<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1964年|*7月-神学部此春寮の入寮資格をめぐって寮生と神学部教授会が対立(翌年まで)<ref>『同志社百年史』通史編二、1476-1481頁</ref>。*8月-博遠館竣工<ref name="2">。*工学部西原教授を長とする同志社アラスカ学術調査隊を派遣。|-|style="white-space:nowrap"|1965年|*4月-大学プール竣工(新町)。*6月-大学記念会館竣工。*8月-[[綴喜郡]][[田辺町]](現・[[京田辺市]])での土地購入の方針を理事会で決定。*11月-熊本バンド奉教記念館(熊本市)の除幕式を挙行。*11月29日-創立90周年記念式を栄光館にて挙行<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1966年|*4月-文学部社会学科に産業関係学専攻を増設。*9月-近畿日本鉄道と第1次田辺土地売買契約を締結。|-|style="white-space:nowrap"|1967年|*4月-文学部文化学科教育学及心理学専攻を教育学、心理学専攻に分割。*4月-至誠館竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1968年|*3月-第2次田辺土地売買契約を締結。*10月-大学ポート部エイトクルーが[[1968年メキシコシティオリンピックメキシコシティ五輪]]日本代表として出場<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1969年|*5月-大学運営時推置法案反対運動が高揚し、6月より半年間全学バリエード・ストに入り、教学まひ状態に陥る<ref name="2">。|-|style="white-space:nowrap"|1970年|*山岳部、ヒマラヤ・ダウラギリ登山に成功<ref name="2">。*12月-大山山岳スキー部が[[立山]]で下山中に猛[[吹雪]]のため遭難、7名死亡の重大事故となる<ref>七人(同志社大)いぜん不明 十六人は無事に避難 吹雪の立山『朝日新聞』1970年(昭和45年)12月3日朝刊 12版 3面</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1972年|*2月1日-デモの計画していた学生約200人が、大学学生会館中庭から烏丸通に出ようとしたところで[[機動隊]]と衝突。学生50人が凶器準備集合、公務執行妨害の現行犯で逮捕<ref>「学生50人を逮捕 封鎖解除の警官と衝突」『朝日新聞』昭和47年(1972年)2月1日夕刊、3版、11面</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1973年|*2月-同志社大学名誉教授規程を制定。*12月-大学新図書館竣工<ref name="library1973-2000">[https://library.doshisha.ac.jp/guide/outline/history/1973.html 図書館のあゆみ(図書館(今出川・ラーネッド)開館〜学術情報センター〜1973-2000)]</ref>。旧図書館を啓明館と改称。|-|style="white-space:nowrap"|1974年|*11月-新町別館開館。|-|style="white-space:nowrap"|1975年|*9月-計算機センター発足。*11月11日-[[上野直蔵]]が第15代総長に就任<ref name="2">。*11月29日-同志社創立100周年記念式を[[国立京都国際会館]]にて挙行。|-|style="white-space:nowrap"|1976年|*9月-光塩館(法・経研究室)竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1978年|*7月-アーモスト大学との教育交流に関する協定を締結。*12月-神学館チャペルにパイプオルガンを設置。|-|style="white-space:nowrap"|1979年|*5月-彰栄館・有終館・ハリス理化学館・クラーク記念館が国の重要文化財に指定される。|-|style="white-space:nowrap"|1980年|*8月-田辺校地(現・[[同志社大学京田辺キャンパス|京田辺校地]])造成工事着工。|-|style="white-space:nowrap"|1982年|*12月-徳照館(文学部研究室・事務室)竣工。|-|style="white-space:nowrap"|1985年|*2月-田辺校地建築工事着工。|-|style="white-space:nowrap"|1986年|*4月-田辺校地開校。*4月-文学研究科社会福祉学専攻博士課程(後期課程)、国文学専攻博士課程(後期課程)開設。*ラーネッド記念図書館開館<ref name="library1973-2000">。|-|style="white-space:nowrap"|1988年|*4月-文学研究科美学および芸術学専攻修士課程を開設。*9月-新島記念講堂(礼拝堂)竣工。|-|{}====平成====< gallery widths="200px" heights="140px" perrow="3"> 170128 Doshisha University Imadegawa Campus Kyoto Japan14n.jpg|良心館(今出川) Kambaikan.JPG|寒梅館(室町) Mukoku-kan (Kyotanabe Campus, Doshisha University).JPG|夢告館(京田辺) </gallery> {<class=wikitable style="font-size:small"!>出来事|-|style="white-space:nowrap"|1991年|*3年|*4月-初の大学院独立研究科として、アメリカ研究科を開設。*4月-学術情報センター発足(図書館と計算機センター、視聴覚室を統合)<ref name="library1973-2000">。|-|style="white-space:nowrap"|1993年|*4月-文学研究科教育学専攻修士課程、文学研究科社会学専攻修士課程、アメリカ研究科アメリカ研究専攻博士課程(後期課程)開設。*4月-言語文化教育研究センター開設。宗教センターをキリスト教文化センターへ改称。|-|style="white-space:nowrap"|1994年|*4月-工学部および工学研究科、理工学研究所を田辺校地に統合移転。知識工学科、機能分子工学科、物質化学工学科を開設。機械工学科を機械システム工学科に、機械工学第二学科をエネルギー機械工学科に改組。|-|style="white-space:nowrap"|1995年|*2月-今出川キャンパスに[[伊東柱]][[石碑|詩碑]]を建立。*4月-大学院独立研究科として、総合政策科学研究科を開設。|-|style="white-space:nowrap"|1996年|*4月-文学研究科美学および芸術学専攻に博士課程(後期課程)を開設。|-|style="white-space:nowrap"|1997年|*4月-文学研究科社会学専攻と総合政策科学研究科総合政策科学専攻に博士課程(後期課程)を開設。*4月-昼夜開講制を実施。*[早稲田大学]]と国内交換留学を実施<ref>[https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/relation/ 他大学との連携-早稲田大学 グローバルエデュケーションセンター]</ref><ref>[https://law.doshisha.ac.jp/faculty/message9/message9.html 法学部・法学研究科 他大学で学ぶ(学生交流)]</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|1998年|*4月-文学研究科新聞学専攻に博士課程(後期課程)を開設。*4月-工学研究科に知識工学専攻修士課程、および数理環境科学専攻修士課程を開設。*4月-[[2学期制|セメスター制度]]を実施。|-|style="white-space:nowrap"|1999年|*4月-留学生別科を設置。|-|style="white-space:nowrap"|2000年|*4月-大学院工学研究科知識工学専攻に博士課程(後期課程)を開設。|-|style="white-space:nowrap"|2001年|*4月-大学院文学研究科教育学専攻に博士課程(後期課程)を開設。*学術情報センターと総合情報センター<ref name="library2001-2008">[https://library.doshisha.ac.jp/guide/outline/history/2001.html 図書館のあゆみ(総合情報センターの発足 2001-2008)]</ref>。|-|style="white-space:nowrap"|2002年|*9月-学生会館竣工(新町)。|-|style="white-space:nowrap"|2003年|*4月-大学院文学研究科産業関係学専攻修士課程を開設。*9月-京田辺キャンパスに情報メディア施設オープン(情報メディア館・ローム記念館)<ref name="library2001-2008">。*校友会解散。|-|style="white-space:nowrap"|2004年|*4月-[[同志社大学政策学部|政策学部]]、専門職大学院(司法研究科、ビジネス研究科)開設。*4月-工学部2学科増設。*4月-寒梅館([[同志社大学室町キャンパス|室町キャンパス]])竣工<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/granddesign/campus/else.html その他のキャンパス | 同志社大学キャンパス整備事業]</ref>。*5月-学生部から学生支援センターへ名称変更<ref>[https://challenged.doshisha.ac.jp/overview/history.html SDA室の沿革

〔スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室について〕<ref>。*[[GPA|GPA制度]]導入。|<style="white-space:nowrap">2005年|*4月 - 文学部社会学科から[[同志社大学社会学部|社会学部]]に改組。*4月 - [[同志社大学文化情報学部|文化情報学部]]開設。*4月 - アンチエイジングリサーチセンター開設<ref>[https://health.doshisha.ac.jp/anti_aging/anti_aging.html|アンチエイジングドック]同志社大学 保健センター</ref>。*9月 - 臨光館竣工(新町)。|<style="white-space:nowrap">2006年|*4月 - 工学部知識工学科をインテリジェント情報工学科に改組。*4月 - 付属小学校として[[同志社小学校]]が開校。*11月 - 学研都市キャンパス開設。|<style="white-space:nowrap">2007年|*アンチエイジングドック開設。|<style="white-space:nowrap">2008年|*4月 - 工学部から[[同志社大理工学部|理工学部]]に改組、それに伴い、2学科を改組、1学科増設。*4月 - [[同志社大学大学院生命医科学研究科|生命医科学研究科|生命医科学研究科]](3学科)、[[同志社大学スポーツ健康科学部|スポーツ健康科学部]](1学科)、大学院生命医科学研究科開設。*10月 - 学研都市キャンパスに赤ちゃん学研究センター開設<ref>[https://akachan.doshisha.ac.jp/tsubyukai/%E3%81%AF%E3%81%98%E3%81%BE%E3%82%8A%E3%81%AF%E8%B5%A4%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%93%E3%81%8B%E3%82%89]はまりは赤ちゃんから|同志社大学 赤ちゃん学研究センター|2022年4月22日閲覧。</ref>。|<style="white-space:nowrap">2009年|*4月 - 大学院総合政策科学研究科に一貫制博士課程の技術・革新的経営専攻を開設。*4月 - 文学部心理学、文学研究科心理学専攻を[[同志社大学心理学部|心理学部・心理学研究科]]に再編し京田辺校地に展開<ref>[http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/2009shinri|同志社大学 2009年4月、心理学部を開設]2008年9月30日 閲覧。{|webarchive|url=https://web.archive.org/web/20090801123412/http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/2009shinri.php|date=2009年8月1日}</ref>。*4月 - 神学部、社会学部の学修校地を今出川校地へ統合<ref>{|Cite web|url=http://www.doshisha.ac.jp/news/index.php?i=2058|title=神学部、社会学部の主たる学修校地を今出川校地に統合|accessdate=2008-09-30|date=2007-12-07|publisher=同志社大学|archiveurl=https://web.archive.org/web/20090213052042/http://www.doshisha.ac.jp/news/index.php?i=2058|archivedate=2009年2月13日|deadlinkdate=2017年9月}</ref>。*9月 - 閉館していた温水プール施設、旧「レジーナ京都」を買収。継志館と改称し、施設を一般にも開放する。|<style="white-space:nowrap">2010年|*4月 - 大学院スポーツ健康科学研究科・大学院グローバル・スタディーズ研究科を開設。*4月 - 隣接する[[同志社中学校・高等学校|同志社中学校]]が岩倉校地へ移転。大学の今出川キャンパスの拡張が可能となる。*9月 - 多々羅キャンパス開設。*大学院アフリカ研究科募集停止。|<style="white-space:nowrap">2011年|*4月 - 京田辺校地にグローバル・コミュニケーション学部を開設。*4月 - 国際教育インスティテュートを設置。*9月 - 付属学校として[[同志社国際学院]](初等部・国際部)開設。|<style="white-space:nowrap">2012年|*4月 - 大学院[[脳科学]]研究科を開設。*4月 - 大学院[[工学研究科]]を大学院[[理工学研究科]]に名称変更。*10月 - 良心館(今出川キャンパス)、志高館(烏丸キャンパス)竣工<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/information/facility/buildings/imadegawa.html#shikokan_building|建物紹介(今出川校地)|大学紹介|同志社大学]</ref>。|<style="white-space:nowrap">2013年|*4月 - 文学部・法学部・経済学部・商学部の学修校地を今出川校地に統合。*4月 - 今出川校地にグローバル地域文化学部を開設。|<style="white-space:nowrap">2014年|*4月 - 大学院ビジネス研究科に修士課程のグローバル経営研究専攻を開設。|<style="white-space:nowrap">2015年|*4月 - 理工学研究科をハリス理化学研究所に改組。*大学院脳科学研究科の学修校地を京田辺校地(学研都市キャンパス)から京田辺校地(京田辺キャンパス)に移転。|<style="white-space:nowrap">2017年|*4月 - 同志社大学[[エバールト・カール大学チュービンゲン|チュービンゲン]]EUキャンパスを開設<ref>[https://univ-online.com/article/reform/15229|大学通信オンライン]2022年4月22日閲覧。</ref>。|<style="white-space:nowrap">2019年|*4月 - 同志社大学新島塾開設<ref>[https://next.doshisha.ac.jp/news/2019/0514/news-detail-1.html|4月27日に新島塾入塾式が開催されました|2019年度のニュース一覧(新島塾)]</ref>。|<|<class="wikitable">|font-size:small"|!年!!出来事|<style="white-space:nowrap">2021年
{|[[令和]]3年|} *3月 - 多々羅キャンパス運営終了。*9月 - 継志寮開寮<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/students/l_support/living_intro/new_dorm.html|新教育寮「継志寮」(2021年9月開寮)]</ref>。|<|<基礎データ>{|[[File:同志社大学 今出川キャンパス.jpg|thumb|250px|今出川図書館と彰栄館(重要文化財)]]<所在地> * 今出川校地 * [[同志社大学今出川キャンパス|今出川キャンパス]](〒602-8580 [[京都府]][[京都市]][[上京区]][[今出川通]]烏丸東入玄武町601番地) * [[同志社大学新町キャンパス|新町キャンパス]](〒602-0047 [[京都府京都市上京区]][[新町通]]今出川上ル近衛殿坂町159-1) * [[烏丸キャンパス|(〒602-0898 [[京都府京都市上京区]][[烏丸通]]上立売上の相国寺門前町647-20) * [[同志社大学室町キャンパス|室町キャンパス]](寒梅館)(〒602-0023 [[京都府京都市上京区]][[烏丸通]]上立売下ル御所八幡町103) * 継志館(〒602-0932 [[京都府上京区新町今出川下ル徳大寺殿町345) 京田辺校地 * [[同志社大学京田辺キャンパス|京田辺キャンパス]](〒610-0394 [[京都府[[京田辺市]]|多々羅郡谷1-3) * 学研都市キャンパス(〒619-0225 [[京都府[[津守川市]]|津守川台4丁目1-1) * 多々羅キャンパス(〒610-0321 [[京都府京都市上京区]]多々羅西平川原39-16) * 大阪サテライト・キャンパス(〒530-0001 [[大阪府]][[大阪市]][[北区]](大阪市)北区)[[梅田]]2-1-22 桜橋アストリアビル9F) * 東京サテライト・キャンパス(〒104-0031 [[東京都]][[中央区]](東京都)中央区)[[京橋]](東京都中央区)京橋]]2丁目7番19号 京橋イーストビル3階) * 同志社大学チュービンゲンEUキャンパス (Keplerstraße 2, Raum 042 & 043, 72074 Tübingen, Deutschland)――象徴==<徽章>[[画像:Doshisha-emblem.jpg|150px|thumb|[[学校法人同志社]]の徽章]] [[正三角形]]を3つ寄せたもので、国あるいは土を意味する[[アッシリア語|アッシリア文字]]「ムツウ」を象案化したものである。「ムツウ」については、[[クル (シュメール神話)|参照]]{要説明|title=「クル」の記事に「ムツウ」の言及ない|date=2021-07-06}}知・徳・体の[[三位一体]]あるいは調和を目指す同志社の教育理念を顕すものと解釈されている<ref name="emblem">[https://www.doshisha.ac.jp/information/history/emblem.html|校名由来と同志社徽章|大学紹介|同志社大学]2019年2月6日閲覧。</ref>。考案者は[[湯浅半月]]。*キャラクター *Ben-K :Ben-K(べんけい)と読む。2009年に制作された<ref name="emblem"/>。創立者である[[新島襄]]の生誕165周年を記念して新島が狢犬とし飼育していた[[ビーグル犬]]の「弁慶号」をモチーフにしているが、新島襄のような犬をやしや洋装を着用している。また、ビーグル犬の特性である強い意志、何事にも果敢に挑戦する姿勢をもって、建学の精神である「自由・自治を尊ぶ精神の養成」を学生に実践してほしいとの願いが込められている。*スクールカラー :[[貝紫色|ロイヤル・パープル]]([[古代紫]])と[[江戸紫]]の中間色)と[[白]]の2色。使用を始めた時期は卒業生の証言から1908年頃と考えられている<ref name="90_150"/>。創立者[[新島襄]]の母校、[[アーマスト大学|アームスト大学]]のスクールカラーと色である。*校歌 *Doshisha College Song [http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song2.html][[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]作詞・カール・ウィルヘルム作曲) {|wikisource|Doshisha College Song} :1908年に同志社の教員であった[[シドニー・ギューリック]]が音楽好きの学生に頼まれ校歌を作ることになった。当時[[地塩寮|京都YMCA会館]]を建設するために京都に滞在していた友人である[[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]に作詞を依頼。ヴォーリズはドイツの[[軍歌]](あるいは愛国歌)の「[[ラインの守り]]」を基にし、歌詞をつけた<ref>[http://www.christian-center.jp/dswcek/08au/1105.html|キリスト教化文化センター|京都 同志社大学] 本井康博「同志社大学神学部教授」、二〇〇八年十一月五日 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録、2019年2月6日閲覧。</ref><ref name="emblem">同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト>[http://www.doshisha-sports.com/old/htdocs/ayumi/contents/02_3.html|同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト]</ref>。*校歌 *Doshisha College Song [http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song2.html][[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]作詞・カール・ウィルヘルム作曲) {|wikisource|Doshisha College Song} :1908年に同志社の教員であった[[シドニー・ギューリック]]が音楽好きの学生に頼まれ校歌を作ることになった。当時[[地塩寮|京都YMCA会館]]を建設するために京都に滞在していた友人である[[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]に作詞を依頼。ヴォーリズはドイツの[[軍歌]](あるいは愛国歌)の「[[ラインの守り]]」を基にし、歌詞をつけた<ref>[http://www.christian-center.jp/dswcek/08au/1105.html|キリスト教化文化センター|京都 同志社大学] 本井康博「同志社大学神学部教授」、二〇〇八年十一月五日 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録、2019年2月6日閲覧。</ref><ref name="emblem">同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト>[http://www.doshisha-sports.com/old/htdocs/ayumi/contents/02_3.html|同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト]</ref>。*校歌 *Doshisha College Song [http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song2.html][[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]作詞・カール・ウィルヘルム作曲) {|wikisource|Doshisha College Song} :1908年に同志社の教員であった[[シドニー・ギューリック]]が音楽好きの学生に頼まれ校歌を作ることになった。当時[[地塩寮|京都YMCA会館]]を建設するために京都に滞在していた友人である[[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]に作詞を依頼。ヴォーリズはドイツの[[軍歌]](あるいは愛国歌)の「[[ラインの守り]]」を基にし、歌詞をつけた<ref>[http://www.christian-center.jp/dswcek/08au/1105.html|キリスト教化文化センター|京都 同志社大学] 本井康博「同志社大学神学部教授」、二〇〇八年十一月五日 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録、2019年2月6日閲覧。</ref><ref name="emblem">同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト>[http://www.doshisha-sports.com/old/htdocs/ayumi/contents/02_3.html|同志社のスポール 同志社大学体育会公式ウェブサイト]</ref>。*校歌 *Doshisha College Song [http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song2.html][[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]作詞・カール・ウィルヘルム作曲) {|wikisource|Doshisha College Song} :1908年に同志社の教員であった[[シドニー・ギューリック]]が音楽好きの学生に頼まれ校歌を作ることになった。当時[[地塩寮|京都YMCA会館]]を建設するために京都に滞在していた友人である[[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]に作詞を依頼。ヴォーリズはドイツの[[軍歌]](あるいは愛国歌)の「[[ラインの守り]]」を基にし、歌詞をつけた<ref>[http://www.christian-center.jp/dswcek/08au/1105.html|キリスト教化文化センター|京都 同志社大学] 本井康博「同志社大学神学部教授」、二〇〇八年十一月五日 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録、2019年2月6日閲覧。</ref><ref name="emblem">同志社の

歌 同志社アトム:マスコットソング。[[鉄腕アトム]]の主題歌の[[替え歌]]である。*第四応援歌 レッツゴー同志社
[http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song9.html]:今出川校地の緑と歴史のある校舎を歌詞に取り入れている。*第五応援歌 若草萌えて [http://www.doshisha.ac.jp/information/fun/song/song8.html]:アメリカ[[南北戦争]]の北軍行進曲「[[Tramp! Tramp! Tramp!|Tramp! Tramp! Tramp!]]」を原曲とする。[[北海道大学]]校歌「永遠の幸」と同一のメロディとなっている。――統計――
class="wikitable mw-collapsible mw-collapsed" |+ 学部入学者の推移<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-1306/102309/file/20182-1.pdf 2-1 学部 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移]</ref>|学部|学科|2014年度|2015年度|2016年度|2017年度|2018年度|-|rowspan="2"|神学部|神学科|62|62|66|64|63|-|学部計|62|62|66|64|63|-|rowspan="6"|文学部|英文学科|294|315|513|305|325|-|哲学科|80|59|65|72|73|-|美学芸術学科|66|56|85|71|72|-|文化史学科|126|123|130|137|120|-|国文学科|136|126|125|117|135|-|学部計|702|679|720|702|725|-|rowspan="6"|社会学部|社会学科|94|94|81|102|89|-|社会福祉学科|98|105|74|112|97|-|メディア学科|87|94|77|113|79|-|産業関係学科|77|87|87|92|79|-|教育文化学科|73|90|90|82|72|-|学部計|429|470|409|501|416|-|rowspan="3"|法学部|法律学科|644|662|674|681|760|-|政治学科|222|198|237|200|236|-|学部計|866|860|911|880|996|-|rowspan="2"|経済学部|経済学科|928|862|904|999|815|-|学部計|928|862|904|999|815|-|rowspan="2"|商学部|商学科|890|883|936|841|894|-|学部計|890|883|936|841|894|-|rowspan="2"|政策学部|政策学科|447|390|422|465|398|-|学部計|447|390|422|465|398|-|rowspan="2"|理工学部|理工学科|文化情報学部|文化情報学科|308|312|294|334|284|-|学部計|308|312|294|334|284|-|rowspan="11"|理工学部|インテリジェント情報工学科|87|93|73|78|92|-|情報システムデザイン科|88|87|92|70|88|-|電気工学科|79|110|96|66|84|-|電子工学科|88|113|99|74|92|-|機械システム工学科|118|120|117|87|101|-|エネルギー機械工学科|74|106|76|67|72|-|機能分子・生命化学科|78|91|87|72|75|-|化学システム創成工学科|92|99|96|70|77|-|環境システム学科|54|50|55|42|55|-|数理システム学科|38|54|48|35|38|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|796|style="background-color:#f4f1e9;"|923|style="background-color:#f4f1e9;"|839|style="background-color:#f4f1e9;"|661|style="background-color:#f4f1e9;"|774|-|rowspan="4"|生命医科学部|医工学科|99|75|120|99|91|-|医情報学科|94|94|106|97|100|-|医生命システム学科|65|51|65|69|74|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|258|style="background-color:#f4f1e9;"|220|style="background-color:#f4f1e9;"|291|style="background-color:#f4f1e9;"|265|style="background-color:#f4f1e9;"|265|-|rowspan="2"|スポーツ健康科学部|スポーツ健康科学科|227|225|227|224|227|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|227|style="background-color:#f4f1e9;"|225|style="background-color:#f4f1e9;"|227|style="background-color:#f4f1e9;"|224|style="background-color:#f4f1e9;"|227|-|rowspan="2"|心理学部|心理学科|144|157|159|182|162|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|144|style="background-color:#f4f1e9;"|157|style="background-color:#f4f1e9;"|159|style="background-color:#f4f1e9;"|182|style="background-color:#f4f1e9;"|162|-|rowspan="2"|グローバル・コミュニケーション学部|グローバル・コミュニケーション学科|151|143|147|155|167|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|151|style="background-color:#f4f1e9;"|143|style="background-color:#f4f1e9;"|147|style="background-color:#f4f1e9;"|155|style="background-color:#f4f1e9;"|167|-|rowspan="2"|グローバル地域文化学部|グローバル地域文化学科|196|188|201|192|213|-|style="background-color:#f4f1e9;"|学部計|background-color:#f4f1e9;"|196|background-color:#f4f1e9;"|188|background-color:#f4f1e9;"|201|background-color:#f4f1e9;"|192|background-color:#f4f1e9;"|213|-|colspan="2" style="font-weight:bold;background-color:#f4f1e9;"|全学部計|style="background-color:#f4f1e9;"|6404|style="background-color:#f4f1e9;"|6374|style="background-color:#f4f1e9;"|6526|style="background-color:#f4f1e9;"|6471|style="background-color:#f4f1e9;"|6399}}
==教育および研究==
==組織==
==学部==
==神学部==
{{Main|同志社大学神学部}}
[[File:170128 Doshisha University Imadegawa Campus Kyoto Japan08s3.jpg|thumb|250px|クラーク記念館(旧神学館)]]
神学部のルーツは[[同志社英学校]]に設けられた余科(バイブル・クラス)に求められる。その後幾度かの名称変更を経て1904年に[[専門学校令]]による同志社神学校、1912年に専門学校令による同志社大学神学部となり、1920年[[大学令]]による同志社大学文学部神学科となった<ref group="注">専門学校令による神学部も1937年まで並存。</ref>。同学科は十五年戦争期におけるキリスト教弾圧や神学校大合同などの逆風の下でも命脈を保ち、終戦後の1947年に旧制神学部、翌年新制神学部となった。その[[学風]]は[[新島襄]]や[[ジェローム・デイヴィス|J.D.デイヴィス]]らによってもたらされた[[ニュージーランド]]の[[ビュリタン・ビュリタニズム]]、[[熊本バンド]]の思想的根幹となった[[自由主義神学]]、昭和初期に[[芦田慶治]]や[[大塚節治]]らによって植え付けられた[[新正統主義|弁証法神学]]が渾然一体となったものと評された<ref>[[中村敏]]『日本プロテスタント神学校史』[[いのちのことば社]]、2013年、224頁<ref>。1999年に神学部神学科と明示される。[[日本基督教団]]認可[[神学校]]だが、現在は、特定教派の[[牧師]]養成のみを目的とせず、[[一神教]]を中心に幅広く[[宗教]]を学ぶ学部となっている。[[キリスト教]][[神学]]のみならず、[[ユダヤ教]]、[[イスラム教|イスラーム]]関連科目が設置されていることも特徴。卒業後の進路は他学部と変わらず一般企業への就職が多い。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んだが、2009年度より全学年を今出川校地に統合。*神学科――文学部――{{Main|同志社大学文学部}}
[[File:Doshisha-Meitokukan.JPG|thumb|250px|明徳館]]
もとと文学部には英文学科、文化学科、社会学科が存在したが、2005年度より社会学科が社会学部へ改組されたのに伴い、文化学科の各専攻が学科へ改組。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んでいたが、2013年度から全学年を今出川校地に統合。副専攻の制度を設けており、希望者は2年次から各コースの履修を始める。*英文学科*[[同志社大学文学部哲学科|哲学科]]<ref name="2年次から各コースに分かれる">2年次から各コースに分かれる</ref>*哲学*倫理学コース*現代倫理・現代社会コース*宗教・文化コース*美学芸術学科*文化史学科<ref group="注">入試は学科単位で募集するが、1年次から日本文化史コースと西洋文化史コースに分かれる。</ref>*日本文化史コース*西洋文化史コース*国文学科*第2部文化学科国文学専攻は2003年3月廃止。*副専攻コース*学科型副専攻<ref group="注">自分の所属学科のコース以外を選択。</ref>*英文学コース*哲学コース*美学芸術学コース*文化史学コース*国文学コース*横断型専攻*人文学総合コース*メディア文化コース*アジア文化コース*国際専修コース――社会学部――{{Main|同志社大学社会学部}}
[[File:Doshisha-Shinmachi.JPG|thumb|250px|臨光館]]
現在の社会学部の前身は1941年4月に設置された文学部文化学科厚生学専攻。1944年10月に法文学部厚生学科に改組され、1946年4月に文学部社会学科が誕生する。その後、2005年度に社会学部へ改組された。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んだが、2009年度より全学年を今出川校地に統合。主に新町キャンパスで学ぶ。*社会学科*社会福祉学科*社会福祉学科は1931年に大学レベルでは日本最初の社会事業学専攻として創設。*メディア学科*1948年の新制大学に合わせて文学部社会学科新聞学専攻として開設された。2004年4月に文学部社会学科メディア学専攻に名称変更され、翌年2005年には社会学部メディア学科に改組される。*産業関係学科*前身の産業関係学専攻は1966年に設置された。社会学、法学、医学等の諸学問を範囲とし学際的視野から「働くこと」について学ぶカリキュラムとなっており、産業や労働問題を扱う学科である。*教育文化学科*社会学部発足以前は、文化学科教育学専攻として設置されていた。社会学部の設置する学科としては唯一異なる学科に属していた。教育文化学科は教員養成を目的としない、教育を学問としてとらえる学科となっている。――法学部――
{{Main|同志社大学法学部}}
1891年に[[同志社政法学校]]が開校したが、1904年に廃止される。現在の法学部の前身は、1912年に[[専門学校令]]による同志社大学に開設された政治経済部である。1919年に政治経済部を法学部と改称。1920年には[[大学令]]による同志社大学に昇格し、[[法学部]]政治学科が誕生した(1923年には法律学科も増設)。1944年に同志社専門学校高等英語部と法律経済部が統合され同志社外事専門学校が設置される。また、同年に大学令による同志社大学の文学部と法学部が統合され、法文学部法経学科となるが、2年後の1946年に法経学部へと再分割され、1948年には新制学部として法学部(法律学科、政治学科)が置かれる。そして1949年に同志社外事専門学校は同志社大学に吸収、1952年に専門学校は廃止され、同志社で政治、法律を学ぶところが一本化される。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んでいたが、2013年度から全学年を今出川校地に統合。ゼミは必修ではない。第2部は2004年3月廃止。*法律学科*履修モデル<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-685/43909/file/law_u.pdf 2015年度入学生用の法学部パンフレット]</ref>*法曹モデル、公務員モデル、企業法務モデル、基礎法学モデル*科目パッケージ(2012年度入学生以前)<ref>http://law.doshisha.ac.jp/law/post-34.html</ref>*民事司法パッケージ、刑事司法パッケージ、行政と法(公務員)パッケージ、外交と法(外交官)パッケージ、企業ビジネス法務パッケージ、企業人事・法務と法パッケージ、国際・企業取引と法パッケージ、知的財産と法(弁理士)パッケージ、雇用社会の法パッケージ、税務と法(税理士)パッケージ、犯罪と法パッケージ、国際社会と法パッケージ、法の歴史と理論パッケージ、社会問題と法(ジャーナリスト)パッケージ*政治学科<ref group="注">2015年度入学生用の法学部パンフレットによると、2年秋学期にコース選択</ref>*国際関係コース*現代政治コース*歴史・思想コース――経済学部――{{Main|同志社大学経済学部}}
[[File:Doshisha University

Ryoshinkan.JPG|thumb|250px|良心館]] 1891年に[[同志社政法学校]]が開校し理財科が置かれたが、1904年に同志社政法学校は廃止される。現在の経済学部の前身は、1912年に[[専門学校令]]による同志社大学に開設された政治経済部である。1919年に政治経済部を法学部と改称。1920年には[[大学令]]による同志社大学に昇格し、[[法学部]]経済学科が誕生した。1922年に専門学校令による同志社専門学校に政治経済部が置かれる。1944年に同志社専門学校高等英語部と法律経済部が統合され同志社外事専門学校が設置される。また、同年に大学令による同志社大学の文学部と法学部が統合され、法文学部法経学科となるが、2年後の1946年に法経学部経済学科へと再分割され、1948年には新制学部として[[経済学部]]が置かれる。そして1949年に同志社外事専門学校は同志社大学に吸収、1952年に専門学校は廃止され、同志社で経済を学ぶところが一本化される。1999年に経済学部経済学科と学科名が明示される。専門科目のほとんどが週に2回の4単位の授業でカリキュラムが構成されている。1年次春学期に基礎ゼミナールという必修の少人数制ゼミ形式のカリキュラムが組まれている。本格的なゼミは2年次秋学期より履修可能で、必修ではない。そのため、卒業論文も必修ではない。ゼミの数はおよそ50で、各ゼミの人数にかなりばらつきがある。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んでいたが、2013年度から全学年を今出川校地に統合。第2部は2004年3月廃止。コース制は2005年4月廃止。副専攻制度を設けており、希望者は2年春学期に申請する。*経済学科 ―――商学部 ――― [[File:Shiseikan Doshisha.JPG|thumb|250px|至誠館]] 現在の商学部の前身は1922年に同志社専門学校の再編時に開設された高等商業部である。その後、1930年12月に高等商業部は[[同志社高等商業学校]]として独立。戦時下の1944年に同志社経済専門学校に改称される。1949年に同志社大学に商学部が開設され、1949年に同志社経済専門学校は同志社大学商学部へ吸収され、同志社経済専門学校は1952年に廃止される。1999年に商学部商学科と明示される。1学年の人数は約800人強で早稲田大学、慶應義塾大学などに比べ小規模な単位での授業が展開されている。ゼミは2年次秋学期より履修可能で、必修ではない。そのため、卒業論文も必修ではない。商学部のカリキュラムが2007年(平成19年)度の[[特色ある大学教育支援プログラム|特色GP]]、学生と教員の幸せな出会いをめざす導入教育～大規模学部における組織的教育改善とその効果の測定～として採用された。以前は1、2年次は京田辺校地で学び、3、4年次は今出川校地で学んでいたが、2013年度から全学年を今出川校地に統合。第2部は2003年3月廃止。*商学科 **商学総合コース ***5つの専門科目の学系から主学系と副学系を選ぶ **フレックス複合コース ***主学系を選択した上で、商学部専門科目をより深く学習する「専門特化型」か、法学や社会学と言った他領域への学問的関心に対応した「副専攻型」を選ぶ **専門科目の学系:「経済・歴史」、「商業・金融」、「貿易・国際」、「企業・経営」、「簿記・会計」 ―――政策学部 ――― {{Main|同志社大学政策学部}} 2004年に55年ぶりに新設された学部。法学・経済学・社会学などの特定の分野に偏らず、社会科学の幅広い領域を学ぶことができる。全学年を今出川校地(主に新町キャンパス)で学ぶ。*政策学科 ―――文化情報学部 ――― {{Main|同志社大学文化情報学部}} 2005年に開設された学部。これまで自然科学の分析対象ではなかった「文化」を、「データサイエンス」という手法で探究する文理融合の学部。全学年を京田辺校地で学ぶ。選択科目は文化クラスター科目、データサイエンス科目などで構成。文化クラスター科目は「文化科目」、「言語科目」、「人間行動科目」、「人間社会科目」に分かれ、データサイエンス科目は「データ分析科目」、「基礎数理科目」、「情報・コンピュータ科目」に分かれる。*文化情報学科 ―――理工学部 ――― {{Main|[[同志社大学大学院理工学研究科|理工学部|同志社大学理工学部]]}} [[画像:Doshisha Campus 1890.7.jpg|250px|thumb|ハリス理化学校ができた1890年の写真。右の建物がハリス理化学館、左が同志社礼拝堂、左端が彰栄館で、現在すべて重要文化財になっている。理化学館中央の天文台は濃尾大地震のあと1893年に撤去された<ref>[http://joseph.doshisha.ac.jp/ihinko/html/n01/n01010/N0101001G.html 新島遺品庫の資料公開]</ref>。]] 1890年に同志社ハリス理化学校が開校。その後1892年に同志社ハリス理科学校、1897年に同志社高等学部波理須理科学校に名称変更される。1904年に同志社高等学部文科学校と合併し、専門学校令による同志社専門学校が設置されるが、1912年に廃止される。現在の理工学部の前身は、1944年に設置された同志社工業専門学校(電気通信科、機械科、化学工業科)である。1949年には同志社大学に[[工学部]](電気学科、機械学科、工業化学科)が設置され、1954年には夜間の第二部(電気工学科、機械工学科、工業化学科)も設置される。1962年に電気学科を電気工学科、機械学科を機械工学科に改称。1963年3月に第二部は廃止され、1963年4月から電子工学科、機械工学第二学科、化学工学科が増設される。1994年には工学部を全学科を京田辺校地に転移し、知識工学科を増設し、機械工学科を機械システム工学科、機械工学第二学科をエネルギー機械工学科、工業化学科を機能分子工学科、化学工学科を物質化学工学科に改組。全学年を京田辺校地で学ぶ。2008年度より[[工学部]]から改組。*インテリジェント情報工学科:1994年に工学部知識工学科を開設。2006年に知識工学科からインテリジェント情報工学科に改称される。「理工学基礎」、「情報工学」、「知的処理」、「[[リメディアル]]」の科目群がある。*情報システムデザイン学科:2004年に工学部情報システムデザイン学科を開設。「理工学基礎」、「情報科学」、「情報システム」の科目群がある。情報システム科目群はさらに「システム設計」の科目と「人間・社会科学系」の科目に分類される。*電気工学科:1949年に工学部電気学科を開設。その後1962年に電気工学科へ名称変更。1年次から「理工学基礎」の科目と「電気工学基礎」の科目を学び、2年次秋学期から「インフラストラクチャ」分野や「パワーエレクトロニクス」分野の科目を学ぶ。*電子工学科:1963年に工学部電子工学科を開設。1年次から「理工学基礎」の科目と「電子工学基礎」の科目を学び、2年次秋学期から「情報通信」分野や「光・電子デバイス」分野の科目を学ぶ。*機械システム工学科 **材料コース **熱・流体コース **機力・制御コース **理工学コース **:1949年に工学部機械学科を開設。1962年に機械工学科、1994年に機械システム工学科へ名称変更。入学すると、「理工学共通科目」、「数学・物理科目」、「機械工学基礎科目」から学ぶ。「機械工学専門科目」には、材料コース、熱・流体コース、機力・制御コース、理工学コースがあるが、機械システム工学科では、主に材料コース、機力・制御コースにおいて、機械システム系の研究テーマの基礎となる科目が多く設置されている。*エネルギー機械工学科 **材料コース **熱・流体コース **機力・制御コース **理工学コース **:1963年に工学部機械工学第二学科を開設。1994年にエネルギー機械工学科へ名称変更。入学すると機械システム工学科同様に、「理工学共通科目」、「数学・物理科目」、「機械工学基礎科目」から学ぶ。「機械工学専門科目」も同様に、材料コース、熱・流体コース、機力・制御コース、理工学コースがあるが、エネルギー機械工学学科では、主に熱・流体コース、機力・制御コース、理工学コースにおいて、エネルギー機械系の研究テーマの基礎となる科目が多く設置されている。*機能分子・生命化学科:1949年に工学部工業化学科を開設。1994年に機能分子工学科、2008年に機能分子・生命化学科へ名称変更。カリキュラムは、1年次から始まる共通科目のほか、主に3-4年次に学ぶ工学関連科目群と理学関連科目群がある。共通科目には、工学の基礎である数学および物理学について学ぶ科目群や、化学の基礎である物理化学、無機化学、有機化学、生命化学などを学ぶ科目群、実験科目がある。*化学システム創成工学科 **マテリアル・プロセスデザインコース **環境・バイオテクノロジーコース **:1963年に化学工学科を開設。1994年に物質化学工学科、2008年に化学システム創成工学科へ名称変更。入学するとまず、「数理基礎」、「化学基礎」、「化学システム工学基礎」の3分野を中心に基礎学力を固めることを目指す。秋学期からは「実験実習」が、2年次からはコース科目が始まる。コースの専門科目を重点的に履修できる一方、両コースにわたって幅広く履修することも可能。*環境システム学科:2004年に開設。カリキュラムは、大きく「工学・環境科学の基礎」、「環境システム学共通科目」、「環境システム学展開科目」、「実験・実習科目」で構成されている。*数理システム学科:2008年に開設。2年次から始まる専門科目には、数理分野、情報統計分野、応用数理分野がある。 ―――生命医科学部 ――― {{Main|[[同志社大学大学院生命医科学研究科|生命医科学部|同志社大学生命医科学部]]}} 全学年を京田辺校地で学ぶ。2008年度に開設。*医工学科 *:応用科目は、「ティッシュエンジニアリング」、「バイオメカニクス」、「バイオマテリアル」、「メディカルロボティクス」の4分野の科目群に分かれている *医情報学科 *:応用科目は、「生体計測」、「脳神経科学」、「情報処理工学」、「生体情報」の4分野の科目群に分かれている *医生命システム学科 *:応用科目は、「分子生命」、「神経科学」、「システム生命」の3分野の科目群に分かれている ―――スポーツ健康科学部 ――― {{Main|同志社大学スポーツ健康科学部}} 全学年を京田辺校地で学ぶ。2008年度に開設。*スポーツ健康科学科 **履修モデル ***健康科学領域 **トレーニング科学領域 **スポーツ・マネジメント領域 ―――心理学部 ――― {{Main|[[同志社大学大学院心理学研究科|心理学部|同志社大学心理学部]]}} 2009年度に文学部心理学科を心理学部へ改組<ref>[http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/2009shinri.php 同志社大学心理学部設置計画の概要]</ref> {{webarchive|url=https://web.archive.org/web/20090801123412/http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/2009shinri.php |date=2009年8月1日}} 2008年9月30日 閲覧。</ref>され、これまでは2年生まで京田辺、それ以降は今出川で分離していたが全学年を京田辺へ統合。*心理学科<ref name="2年次から各コースに分かれる"/> **神経・行動心理学コース **臨床・社会心理学コース **発達・教育心理学コース ―――グローバル・コミュニケーション学部 ――― 2010年度に開設。全学年を京田辺校地で学ぶ。英語コースではアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの5カ国13校、中国語コースでは中国、台湾の計3校のいずれかへの留学(1年間)を必修としている。*グローバル・コミュニケーション学科 **英語コース **中国語コース **日本語コース(留学生対象) ―――グローバル地域文化学部 ――― 2013年度に開設。全学年を今出川校地(主に烏丸キャンパス)で学ぶ。*グローバル地域文化学科 **ヨーロッパコース **アジア・太平洋コース **アメリカコース ―――研究科 ――― 神学研究科 ――― 1950年に修士課程が開設され、1953年に博士課程が開設される。日本で最も長い歴史を持つ神学教育機関。現在は博士課程の前期課程と後期課程がある。*神学専攻 **前期課程のコース ***聖書神学研究コース ***歴史神学研究コース ***組織神学研究コース ***実践

神学研究コース ***一神教学際研究コース ===== 文学研究科 ===== 1950年に修士課程が開設され、1953年に博士課程が開設される。2005年度に文学研究科と社会学研究科に分割される。現在は博士課程の前期課程と後期課程がある。*哲学専攻 *英文学・英語学専攻 :2005年度に英文学専攻から改称。*文化史学専攻 *国文学専攻 *美学芸術学専攻 ===== 社会学研究科 ===== 2005年度に文学研究科より分割される。博士課程の前期課程と後期課程がある。*社会福祉学専攻 :1950年に日本最初の大学院社会福祉学専攻として開設される。*メディア学専攻 :2005年度に新聞学専攻から改称。*教育学専攻 *社会学専攻 *産業関係学専攻 ===== 法学研究科 ===== 1950年に修士課程が開設され、1953年に博士課程が開設される。現在は博士課程の前期課程と後期課程がある。*政治学専攻 *私法学専攻 *公法学専攻 ===== 経済学研究科 ===== 1950年に修士課程が開設され、1953年に博士課程が開設される。現在は博士課程の前期課程と後期課程がある。2012年度まで、前期課程の両専攻には「研究職コース」、「政策分析コース」、「国際比較コース」、「キャリアアップコース」が設けられていた。*前期課程 **理論経済学専攻 ***理論分析コース ***政治経済学・経済史コース **応用経済学専攻 ***アブライド・エコノミクスコース ***クリエイティブ・エコノミーコース *後期課程 **経済政策専攻 ===== 商学研究科 ===== 1950年に修士課程が開設され、1953年に博士課程が開設される。現在は博士課程の前期課程と後期課程がある。*商学専攻 ===== 総合政策科学研究科 ===== 1995年に独立研究科としてスタート。2009年に5年一貫制の技術・革新的経営専攻を併設した。2012年11月以降は今出川校地・烏丸キャンパスの志高館で学ぶ。*総合政策科学専攻 **博士課程 (前期課程) ***政策研究コース ***ソーシャル・イノベーションコース **博士課程 (後期課程) ***公共政策コース ***企業政策コース ***国際政策コース ***ソーシャル・イノベーションコース *技術・革新的経営専攻 (一貫制博士課程) ===== 文化情報学研究科 ===== 2007年度に博士課程 (前期)、博士課程 (後期) が開設される。*文化情報学専攻 **文化資源学コース **言語データ科学コース **行動データ科学コース **データ科学基盤コース ===== 理工学研究科 ===== {{Main|[[同志社大学大学院理工学研究科|理工学部|同志社大学大学院理工学研究科]]}} 1955年に修士課程が開設された。2012年に工学研究科から理工研究科に改称。博士課程の前期課程と後期課程がある。*情報工学専攻 :2008年度に知識工学専攻から改組 *電気電子工学専攻 :2008年度に電気工学専攻から改組 *機械工学専攻 *応用化学専攻 *数理環境科学専攻 ===== 生命医科学研究科 ===== {{Main|[[同志社大学大学院生命医科学研究科|生命医科学部|同志社大学大学院生命医科学研究所]]}} 2008年度に開設。博士課程の前期課程と後期課程がある。*医工学・医情報学専攻 **医工学コース **医情報学コース *医生命システム専攻 ===== スポーツ健康科学研究科 ===== 2010年度に開設。博士課程の前期課程と後期課程がある。*スポーツ健康科学専攻 ===== 心理学研究科 ===== {{Main|[[同志社大学大学院心理学研究科|心理学部|同志社大学大学院心理学研究科]]}} 2009年度に文学研究科心理学専攻を心理学研究科へ改組。博士課程の前期課程と後期課程がある。*心理学専攻 **前期課程のコース ***心理学コース ***臨床心理学コース ===== グローバル・スタディーズ研究科 ===== 2010年度に開設。今出川校地・烏丸キャンパスの志高館で学ぶ。博士課程の前期課程と後期課程がある。*グローバル・スタディーズ専攻 **アメリカ研究クラスター **現代アジア研究クラスター **グローバル社会研究クラスター ===== 脳科学研究科 ===== {{Main|同志社大学大学院脳科学研究科}} 2012年度より開設。一貫制博士課程。京田辺校地・学研都市キャンパスに設置されていたが、2015年2月から京田辺に統合。*発達加齢脳専攻 ===== 司法研究科 ===== 専門職学位課程。法科大学院。2004年度に開設される。今出川校地・室町キャンパスの寒梅館で学ぶ。寒梅館には模擬法廷や、24時間利用できる自習室が設置されている。2017年度の[[新司法試験]]の合格者数は全国で14位<ref>[http://law-school.doshisha.ac.jp/01_outline/track_record.html 司法試験合格実績] | 同志社大学法科大学院(同志社大学 大学院司法研究科法務専攻)]</ref>、合格率は17.9%<ref>[http://law-school.doshisha.ac.jp/02_entrance_ex/qa_12.html {{Nowiki|入試Q&A}} その他(司法試験合格実績等) | 同志社大学法科大学院(同志社大学 大学院司法研究科法務専攻)]</ref>。*法務専攻 ===== ビジネス研究科 ===== 専門職学位課程。2004年度に開設される。今出川校地・室町キャンパスの寒梅館で学ぶ。2009年秋よりすべての授業を英語で実施するグローバルMBAプログラムが設立される<ref>[http://bs.doshisha.ac.jp/modules/mba_program3/index.php?id=16 同志社ビジネススクール Global MBAプログラム] {{webarchive|url=https://web.archive.org/web/20091230092216/http://bs.doshisha.ac.jp/modules/mba_program3/index.php?id=16 |date=2009年12月30日}}</ref>。*ビジネス専攻 ===== アメリカ研究科 ===== 1991年度に日本で最初のアメリカ研究の独立研究科として心理学課程を開設。1993年度に修士課程を博士課程 (前期) と改称し、博士課程 (後期) を増設。2010年に募集停止。*アメリカ研究専攻 ===== 別科 ===== *留学生別科 (日本語教育センター) ===== 短期大学部 ===== {{Main|同志社大学短期大学部}} 同志社大学では1950年から1958年まで[[同志社大学短期大学部]]が存在し、学生募集は1953年度まで行っていた<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/information/history/chronology.html 同志社大学年表] および[[1954年|昭和29年]]度[[『全国短期大学一覧|短期大学一覧]]]24頁を参照。</ref>。1954年度より、同志社大学の[[文学部|文]]・[[法学部|法]]・[[経済学部|経済]]・[[商学部|商]]・[[工学部|工]]の各[[学部]]に[[夜学|第2部]] (夜間部) を設置するに伴い、[[短期大学]]の学生募集を停止し、1958年12月10日をもって廃止<ref name="2011年">[[2011年|平成23年]]度[[『全国短期大学高等専門学校一覧]]]281頁より。</ref>。それぞれ2部に改組させる。===== 附属機関 ===== 以下の附属機関は2018年4月現在<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/information/overview/organization/clerical.html 組織図(事務組織図) | 大学紹介 | 同志社大学]</ref>。*キリスト教文化センター *:今出川に設置。1993年に宗教センターから名称変更 *学生支援機構 **学生支援センター **カウンセリングセンター **保健センター **キャリアセンター *教育支援機構 **教務部 **全学共通教養教育センター *:京田辺に設置 **学習支援・教育開発センター **免許資格課程センター **:今出川に設置 *入学センター *国際連携推進機構 **国際センター **国際教養教育院 ***グローバル教育センター ***日本語・日本文化教育センター **国際教育インスティテュート **EUキャンパス支援質 *学長室 **企画課 **庶務課 **交友課 **一貫教育推進課 **募金課 **広報部 **広報課 **東京オフィス **総務部 **財務部 **施設部 *京田辺校地総務部 *図書館 *アメリカ研究所 *:1958年、今出川に設置 *人文科学研究所 *:1944年に同志社大学研究所として開設。1957年に人文科学研究所に名称変更。*ハリス理化学研究所 *:1959年、京田辺に設置。2015年4月、「理工工学研究所」から改組。*歴史資料館 *:京田辺に設置 *同志社社史資料センター *:今出川に設置 *研究開発推進機構 **リエゾンオフィス **知的財産センター **先端的教育研究拠点 **研究センター群 **寄付研究プロジェクト群 **大学院高度化推進支援センター *高等研究教育機構 **高等教育院 *環境保全・実験実習支援センター *:京田辺に設置 *男女共同参画推進室 *倫理審査室 {{class="wikitable sortable" style="font-size:small" |+ 先端的教育研究拠点 |* 先端的教育研究拠点 |拠点 |備考 |}-| 神教学際研究センター |今出川 |私立大学戦略的研究基盤形成支援事業選定拠点 |}-| 技術・企業・国際競争力研究センター |今出川 |私立大学戦略的研究基盤形成支援事業選定拠点 |}-| エネルギー変換教育センター |京田辺 |私立大学戦略的研究基盤形成支援事業選定拠点 |}-| ライフリスク研究センター |今出川 |}} {{class="wikitable sortable" style="font-size:small" |+ 研究センター群 |研究センター |拠点 |備考 |}-| インフラストラクチャー研究センター |京田辺 |}-| 電磁エネルギー応用研究センター |京田辺 |私立大学戦略的研究基盤形成支援事業選定拠点 |}-| 高等教育・学生研究センター |継志館 |}-| 文化遺産情報科学研究センター |京田辺 |}-| 生体医療材料研究センター |京田辺 |}-| 犯罪学研究センター |今出川 |}-| 関係論的システムデザイン研究センター |京田辺 |}-| ソーシャル・イノベーション研究センター |江湖館 |}-| 国際比較法文化研究センター |今出川 |}-| アフガニスタン平和・開発研究センター |今出川 |}-| 古都ローマ・京都歴史遺産研究センター |今出川 |}-| コリア研究センター |今出川 |}-| イノベティブコンピューティング研究センター |京田辺 |}-| モビリティ研究センター |京田辺 |}-| ニューロセンシング・バイオナビゲーション研究センター |京田辺 |}-| 国際ビジネス法務研究センター |今出川 |}-| 実証に基づく心理トリートメント研究センター |京田辺 |}-| 波動エレクトロニクス研究センター |京田辺 |}-| 高次神経機能障害研究センター |京田辺 |}-| 先端複合材研究センター |京田辺 |}-| 神経疾患研究センター |学研都市 |}-| 新エネルギー変換材料研究センター |京田辺 |}-| 管径方向分岐現象研究センター |京田辺 |}-| 治療システム研究センター |京田辺 |}-| ナノ・バイオサイエンス研究センター |京田辺 |}-| 市民外交研究センター |今出川 |}-| 先端バイオメカニクス研究センター |京田辺 |}-| 創造経済研究センター |今出川 |}-| アディボサイト&マッスルサイエンス研究センター |京田辺 |}-| 体医科学研究センター |京田辺 |}-| 奄美・沖縄・琉球研究センター |今出川 |}-| 超音波医科学研究センター |京田辺 |}-| こころの科学研究センター |京田辺 |}-| 高機能微粒子研究センター |京田辺 |}-| 京都と茶文化研究センター |今出川 |}-| 東南アジアのプランテーション研究センター |今出川 |}-| 先端医工学研究センター |京田辺 |}} {{class="wikitable sortable" style="font-size:small" |+ 寄付研究プロジェクト |寄付研究プロジェクト |拠点 |備考 |}-| アンチエイジングリサーチセンター |京田辺 |style="white-space:nowrap"|2005年に開設。バイオメディカル研究プロジェクト |}-| 炎症・再生医療研究センター |今出川 |バイオメディカル研究プロジェクト |}-| 赤ちゃん学研究センター |京田辺 |style="white-space:nowrap"|2008年10月に開設。心理学部の主要施設で、同様の研究施設としては日本初。|}-| 糖化ストレス研究センター |京田辺 |}-| 天然物基盤創薬研究センター |}} ===== 図書館 ===== {{Infobox |bodystyle=width:300px |abovestyle=background:#660066;color:#fff |above=[[画像:Japanese Map symbol (Library) w.svg|20px]] |同志社大学図書館 |image=[[画像:The Learned Memorial Library at Doshisha University, Kyotoanabe, Japan.JPG|230px]] |caption=京田辺キャンパス :ラーネッド記念図書館 |headerstyle=background:#660066;color:#fff |labelstyle=background:#f4f1e9 |datastyle=background:white |header1=情報 |label2=正式名称 |data2=同志社大学図書館 |label3=専門分野 |data3=総合 |label4=蔵書数 |data4=2,721,915冊 (2017年4月1日現在)<ref>{{PDFlink|https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-

フォーム(13大学共同)|2007|-「伝統産業グローバル革新塾」プロジェクト|2006|-「ビジネススクール教育の質保証システム開発|2005|-「国際的視野と判断力をもつ法律家の養成」rowspan="2"|2004|-「同志社ビジネススクール地域連携事業推進プロジェクト」rowspan="4"|[[大学院教育改革支援プログラム]]|安全・安心の設計システム技術者養成課程|2008|-「研究センター連携型オープンフィールド教育」rowspan="3"|2007|-「国際的「理論・実践循環型」教育システム」|「電力・通信インフラ研究者・技術者育成課程」|「魅力ある大学院教育」イニシアティブ|「ソーシャル・イノベーション研究コース」|2005|}
===学問の自由===
建学の精神がキリスト教に基づいており、キリストの教えや建学の精神に反することは研究および教育の場でも制限を受けると考えられている。[[同志社]]の教育理念として、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」が掲げられているが、前提は建学精神としてキリスト教精神に基づく「良心」である<ref name="into"/>。
==学生生活==
大学生が人口の1割という多さの京都市は、伝統的に大学生に親しみが強く同志社の学生のことを「同やん」と呼ぶ。そうした京都の温かい眼に育まれる学生生活を同志社大学の学生は送っている。
==部活動・クラブ活動・サークル活動==
[[画像:DoshishaGolf.jpg|200px|thumb|京田辺校地ゴルフ練習場]]
同志社大学で活動する団体は「学生支援センター登録団体」、「学友団公認団体」と「その他」に分けられる。新入生入学時期には各団体のオリエンテーション期間が設けられており、各団体は校地内に設けたブースで新入生に参加を呼びかけている。こうした団体の紹介に専門のフリーペーパーを発行する団体も存在する。同スポーツでも複数の団体が存在するため、同志社大学内の団体のみが加盟するDoshisha Tennis League([[テニス|硬式テニス]])、D-League([[サッカー]])などといった連盟が存在する。
*学生支援センター登録団体
*学生支援センターに団体の登録申請を提出すれば登録団体と認められる。ただし人数や、顧問を置くことなどの条件がある。コピー機や会議室など様々な学校の備品が使えるようになる。およそ170団体<ref name="kounin">[https://www.doshisha.ac.jp/student_life/support/club.html 課外活動(クラブ・サークル)|学生生活|同志社大学]</ref>。
*学友団公認団体
*学友団公認団体は学生支援センター登録団体を経て審査をパスすればなることができる。登録団体の特権に加え、BOXと呼ばれる部室の提供、補助金など大学からの支援が多くなる。体育会も公認団体に属し、およそ170団体<ref name="kounin"/>。
==学園祭==
同志社大学の[[大学祭|学園祭]]は[[同志社大学今出川キャンパス|今出川キャンパス]]で行われる「同志社EVE」と[[同志社大学京田辺キャンパス|京田辺キャンパス]]で行われる「同志社クローパー祭」がある。どちらの学園祭も地域社会に開かれている。
*同志社EVE
*:創立記念日である11月29日の前日まで行われるため「EVE」と名づけられた。11月1日〜28日を開催期間としているが、一般的な学園祭としては最後の3日間である11月26日〜28日の期間に行われている(したがって多くの大学で見られるように休日に合わせて行われていないため、この3日間が全て平日となる年度もある)。
*:今出川キャンパス内にブースが立ち並び、教室ではライブや展示会などが行われる。学友団の公認団体だけでなく、学生支援センター登録団体や、ゼミ単位での出店も多く見られる。同志社の学生のみならず他大学の学生や一般人も多く出入りする。同志社EVEの歴史は古く、およそ60回続いている。正式名称は第○○○回同志社EVEであり、この○○○は同志社設立からの年数であり、「同志社EVE」の開催回数ではない。この学園祭は大学主導で行われるのではなく、毎年同志社EVE実行委員会が結成され、運営にあたる。なお、同志社EVEは学生内で一般に「EVE祭」と呼ばれるが、同志社EVEは「学生活動の発露の場」であり、他大学の学園祭とは趣旨が違いため、「EVE祭」とは呼ばない。翌日の創立記念日は全学休講となる<ref>[http://www.doshisha.ac.jp/students/schedule/eve/ 同志社大学/同志社EVE 2008年10月22日 閲覧]</ref><ref>[http://www.doshishaeve.com/index.html 第133回同志社EVEホームページ 2008年10月22日 閲覧]</ref>。また、この時期から年末にかけて西門(烏丸通に面した門)付近の大きな[[ヒマラヤスギ]]にイルミネーションが施され、雑誌に紹介されるなど人気である<ref>[http://kyoto-np.jp/kp/koto/xmas/xmas02.html 京都新聞2008年11月] 2008年9月30日 閲覧。</ref><ref>[http://www.kyorokuyoro.net/event/tsusin/2004/773.html X'masイルミネーション【同志社大学 今出川キャンパス】 2008年9月30日 閲覧。</ref>。これは毎年の恒例となっているが[[JR福知山線脱線事故]]の起こった年は実施されなかった。*講義回数の増加に伴い、EVE期間の縮小が大学側より提案された。学友会による反対署名運動が行われたものの、2010年度から縮小される見込みである。
*同志社クローパー祭(旧愛称: ADAM祭)
*:もともと京田辺キャンパスには学園祭はなく、[[京田辺市]]との包括協定の一環として2005年度から開催されている。「大学と地域が連携した全く新しいお祭り」を目指しており、学生だけでなく市民も模擬店やステージ発表に参加できる。その他アーティストライブやOB・OGによる講演会なども行われる。今出川キャンパスで行われる「同志社EVE」に対して「ADAM祭」と呼ばれていた(この「ADAM」という名称は聖書の「アダムとイブ」から付けられたものである)が、EVE実行委員会から「同志社EVEの由来を間違えて認識してしまう」とクレームが入り、2010年より管轄が総務課から学生支援課に移ったことを機に「クローパー祭」に改称された。主催は大学であるが、企画・運営は学生が実行委員会を組織で行われている。また[[京田辺市]]が共催し、広報などの面でバックアップをしている。2013年に文系学部が今出川キャンパスに移転し来場者数は半減したが、実行委員会の努力により増加し約1万2千人<ref>[https://www.unn-news.com/doshisha/2015/11/16/1753/ 参加者増で大盛況 ―同志社クローパー祭2015 <nowiki></nowiki> 同志社PRESS]</ref>。開催時期は「EVE」よりも早く11月上旬ごろで、[[京田辺市]]主催の「市民文化祭」と同日。スポーツフェスティバルも併せて開催される。
*スポーツフェスティバル
*:2002年度から京田辺キャンパスで行われている。開催時期は同志社クローパー祭と同じ11月上旬で、地域住民も参加可能である。
==スポーツ==
[[画像:Teikyo University vs Doshisha University.JPG|200px|thumb|ラグビー部(紺が同志社大学)]]
スポーツは大学スポーツ協会には参加していない。*[[同志社大学体育会硬式野球部|硬式野球部]]は[[関西学生野球連盟]]に加盟、[[同立戦]]は大学野球ファンにはよく知られている。*[[同志社大学ワイルドローバー|ワイルドローバー]]は[[アメリカンフットボール]]のチームの愛称で、[[新島襄]]が脱国し、[[アメリカ合衆国]]に渡った時の船名に由来する。*[[同志社大学ラグビー部|ラグビー部]]は関西学生ラグビー界では著名で、1980年代前半には[[全国大学ラグビーフットボール選手権大会]]において3連覇を含む4度の優勝を成し遂げた。*[[同志社大学バスケットボール部|バスケットボール部]]は[[全日本大学バスケットボール選手権大会]]に52回出場して準優勝1回を誇る強豪である。
==体育会の一覧==
{{columns-list|4|
*アイスホッケー部
*フィギュアスケート部
*スピードスケート部
*スキー部
*水泳部
*ボート部
*ボートセーリング部
*ヨット部
*カヌー部
*山岳部
*ワンダーフォーゲル部
*アーチェリー部
*弓道部
*射撃部
*ゴルフ部
*ボウリング部
*自動車部
*自転車競技部
*トライアスロン部
*航空部
*ボクシング部
*相撲部
*柔道部
*レスリング部
*空手道部
*剣道部
*フェンシング部
*日本拳法部
*少林寺拳法部
*合気道部
*居合道部
*馬術部
*[[同志社大学ワイルドローバー|アメリカンフットボール]](ワイルドローバー)
*[[同志社大学ラグビー部|ラグビー部]]
*[[同志社大学体育会サッカー部|サッカー部]]
*[[同志社大学バスケットボール部|バスケットボール部]]
*バレーボール部
*ハンドボール部
*ラクロス部
*[[同志社大学体育会硬式野球部|硬式野球部]]
*準硬式野球部
*軟式野球部
*ソフトボール部
*テニス部
*ソフトテニス部
*卓球部
*陸上ホッケー部
*バドミントン部
*陸上競技部
*体操競技部
}}
==大学関係者と組織==
[[File:同志社3293.JPG|230px|thumb|同志社校友会・京都市上京区]]
==大学関係者組織==
==同窓会==
==同志社校友会==
「同志社校友会」と称される同窓会の会員は、同志社大学をはじめ、系列校である*[[同志社中学校・高等学校]]*[[同志社香里中学校・高等学校]]*[[同志社国際中学校・高等学校]]*[[同志社小学校]]*[[同志社国際学院初等部・国際部]]以上の学校を卒業した者又は別科を終了した者となっている。これには旧予科旧制中学4年修了者も含まれる。ただし、[[同志社女子大学]]及び[[同志社女子中学校・高等学校|同志社女子中学校・同志社女子高等学校]]の卒業生は同志社同窓会と呼ばれる別団体の加入となる。主な活動としては講演会及び親睦のための事業、同志社の発達をサポートするうえで必要とされる事業、同志社で学ぶ学生や生徒及び児童の支援、卒業後の学生の社会人としての活動の支援、全国支部長会の開催と支部活動の支援などがあげられる。校友会員として会費を納入すると、校友会機関誌である「The Doshisha Times」(デジタル版有)が届けられる。また全国各地に支部があり、海外にも36の支部が存在する。
==学部別同窓会==
==同志社大学商学部樹徳会==
同志社大学商学部の卒業生で組織される。1926年に結成された徳照会が前身。
*同経会
*:同志社大学経済学部卒業生で組織される。1961年に設立。
*同志社大学政法会
*:同志社大学法学部卒業生で組織される。会員数は約4万7千人。1994年に設立。
*総政会
*:同志社大学大学院総合政策研究科の修了生で組織される。
*同志社大学大学院司法研究科アラムナイ・アソシエーション
寒梅会
*:同志社大学大学院司法研究科([[法学大学院]]、[[ロースクール]]){{要曖昧さ回避|date=2016年2月}}の修了生で組織される。2007年に設立。
*史友会(同志社大学文学部文化史学同窓会)
*:同志社大学文学部文化史学科及びその前身である文化学科文化史専攻修了者の同窓会。
*心理学同窓会
*:同志社大学文学部文化学科心理学専攻、文学部心理学科、心理学部、文学研究科心理学専攻、心理学研究科を卒業したものの親睦をはかると同時に、心理学部、心理学研究科、同志社大学の発展に寄与することを目的として設立。発足は1955年で一時的停止を経た後、1978年に再結成された。
==大学関係者一覧==
{{See|同志社大学の人物一覧}}
==施設==
==今出川校地==
今出川校地は京都市上京区にある今出川キャンパス、新町キャンパス、室町キャンパス、烏丸キャンパス、継志館がある校地。人文・社会科学系の研究拠点である。洋風で統一感のある校舎群が美しい。
==今出川キャンパス==
{{Main|同志社大学今出川キャンパス}}
今出川キャンパスは旧[[薩摩藩]]邸の跡地で、[[同志社英学校]]時代から利用されている。隣接して[[冷泉家]]、南に[[京都御所]]、北に[[相国寺]]がある。今出川キャンパス内では同志社礼拝堂、クラーク記念館など、5棟が国の重要文化財に指定されている。これらの建物は現在でも講義・事務所・礼拝等に使用されている。
<gallery>
Imadegawa Campus, Doshisha University.jpg|西門からの今出川キャンパス
DoshishaChurch.jpg|同志社礼拝堂

[[重要文化財]]
170128 Doshisha University Imadegawa Campus

Kyoto Japan12n.jpg|彰栄館（重要文化財）170128 Doshisha University Imadegawa Campus Kyoto Japan02n.jpg|ハリス理化学館
（重要文化財）Doshisha University Ryoshinkan.JPG|今出川キャンパスの最大校舎である良心館 Doshisha-Hakuenkan.JPG|博遠館 同志社大学 継志館.jpg|継志館 </gallery> ===== 新町キャンパス ===== {{Main|同志社大学新町キャンパス}} 1959年に旧[[日本電池]]本社跡地に設置されたキャンパス。2005年秋には政策学部と社会学部が主に使用する臨光館が改築、完成した。臨光館は[[五摂家]]の一つの[[近衛家]]の邸宅の跡地でもある。また、サークル活動の拠点にもなっている。<gallery> Doshisha rinkokan2.jpg|の尋真館と左の臨光館を三階で結ぶ渡り廊下には創立者である新島襄の言葉『諸君ヨ、一人一人ハ大切ナリ』と書かれている。Doshisha rinkokan.jpg|臨光館 </gallery> ===== 室町キャンパス ===== {{Main|同志社大学室町キャンパス}} 室町キャンパスは、烏丸通を挟んで今出川キャンパスの向かいに位置している。旧大学会館跡地であり、2004年3月の寒梅館完成時に命名され、寒梅館一棟のみが室町キャンパスと呼ばれる。法科大学院、ビジネス大学院、総合政策科学研究科が主に使用している。<gallery> 170128 Doshisha University Muromachi Campus Kyoto Japan01s3.jpg|寒梅館 Doshisha-kyudaigakukaikan.JPG|寒梅館が建設される前に建っていた大学会館 </gallery> ===== 烏丸キャンパス ===== 烏丸キャンパスは今出川キャンパスより北に300mの位置にある、志高館（略称：SK）という校舎一棟で成立しているキャンパス。2010年10月に京都市市繊維技術センターの跡地（約7,700m²）を購入し<ref>{{PDFlink|http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000089/89677/221014haifusiryo.pdf|元京都市繊維技術センターの概要}}</ref>京都市資料<ref>、2012年11月から使用を開始した。使用学部、研究科は国際教育インスティテュート、グローバル地域文化学部（2013年4月開設）、総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科である。キャンパス内には日本初となる「キャンパス内交番」を設置している。キャンパス敷地内に設置されている[[京都府警察]][[上京警察署]]上御霊前交番には、「トラブル」防止のための学生に対する監視・管理・威嚇の役割が期待されていると、学生による建設反対運動が行われた。（https://www.doshisha.ac.jp/information/overview/president/question/answer43.html 参考）<gallery> Doshisha University Karasuma Campus Shikokan.JPG|志高館 </gallery> ===== 京田辺校地 ===== 京田辺校地は京都府京田辺市の京田辺キャンパスを中心とした校地。京田辺市の多々羅キャンパス、相楽郡の学研都市キャンパスを含む。理系、スポーツ系の研究拠点であり、体育会系の活動拠点でもある。===== 京田辺キャンパス ===== {{Main|同志社大学京田辺キャンパス}} 京田辺キャンパスは1986年に同志社女子大学京田辺キャンパスと同志社国際中学校・高等学校に隣接する79万m²の丘陵に開校されたキャンパス。この地は[[継体天皇]]の筒城宮の伝承が残る。開校当時は全学部の1・2年次教育を担っていたが、1994年工学部が全面移転したことを皮切りに、理系拠点としての整備が進み、理学・工学・生命科学・情報学部、心理・体育・外国語学系の全学年と、文・法・商・経済学部が展開されていた。2013年4月より文系学部は今出川キャンパスに移転し、主に理系学部のキャンパスとなる。<gallery> The Learned Memorial Library at Doshisha University, Kyotanabe, Japan.JPG|ラーネッド記念図書館 Davis Memorial Auditorium.JPG|デイヴィス記念館 Doshisha-rohm.jpg|同志社ローム記念館 Mukoku-kan (Kyotanabe Campus, Doshisha University).JPG|夢告館 DoshishaKochikan.jpg|香知館内部 </gallery> ===== 多々羅キャンパス ===== [[File:同志社大学 多々羅キャンパス 本館.jpg|thumb|多々羅キャンパス本館]] 京都[[厚生年金休暇センター]]（ウェルサンピア京都）の跡を購入したもの。名称公募により2010年4月1日に命名される<ref>http://www.unn-news.com/doshisha/2010/04/17/%E5%90%8C%E5%BF%97%E7%A4%BE%E5%A4%A7%E6%96%B0%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E5%90%8D%E7%A7%B0%E3%81%AF%E3%80%8C%E5%A4%9A%E3%80%85%E7%BE%85%EF%BC%88%E3%81%9F%E3%81%9F%E3%82%89%EF%BC%89-2/|同志社大新キャンパス名称は「多々羅（たたら）キャンパス」</nowiki></nowiki>同志社PRESS|2019年2月6日閲覧.</ref>。ホテル棟は留学生等のための宿泊施設に活用されている。スポーツ施設は課外スポーツ活動の充実を目的としているが、可能な範囲で一般学生・留学生・教職員に無料で開放され、地域住民も有料で利用が可能である。2021年3月末で運営終了<ref>https://www.doshisha.ac.jp/information/facility/list/tatara/outline.html 同志社大学多々羅キャンパス（概要）</ref>。===== 学研都市キャンパス ===== [[File:同志社大学学研都市キャンパス.jpg|thumb|学研都市キャンパス正門]] 2005年12月に[[キヤノン]]エコロジー研究所跡地を買収し設置。隣接する[[学研都市病院]]などとの医工分野における相互協力・連携を含む、新たな理工系研究施設として活用する。現在は主に[[脳科学]]研究科が使用している。敷地面積は約5万m²、建物面積は約8,500m² <ref>{{PDFlink|https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-579/1555/file/dd4200.pdf|同志社大学 校地・校舎の概要}}</ref>。===== 学外キャンパス ===== 総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コースの学外キャンパスとして位置づけられている<ref>http://sosei.doshisha.ac.jp/facilities/02.html|同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コース|2010年4月3日 閲覧.</ref>。*京町屋キャンパス *:江湖館（こうかん）のみに構成されている。京町屋が拠点となっている。*大原農家キャンパス *:農縁館・結の家（ゆいのいえ）で構成されている。京都市左京区三千院近くの農家が社会実験拠点となっている。===== かつて存在したキャンパス ===== 岩倉校地===== 現在の[[同志社小学校]]・[[同志社中学校・高等学校|中学校・高等学校]]が位置する土地（＝岩倉校地、京都府京都市左京区）は、かつて[[旧制専門学校|旧制]]の[[同志社高等商業学校]]（現在の[[商学部]]などの前身）の校地として使用されたのち、同志社大学の運動施設が置かれていた土地である。===== 寮 ===== 同志社大学の学生寮は、居住する学生自身によって管理・運営される点が大きな特徴である。あくまで学生の自主管理であるため、[[大学]]が広範に管理を行う一般的な学生寮のイメージとは異なっている。同志社大学ではこうした学生が自主管理を行う考え方を「自治理念」と呼んでいる。「自治理念」とは、土地や建物は大学の「施設」であるものの、その管理・運営は、居住する寮生自身によって行うという考え方である。実際、寮の管理・運営における大学との関係においては、自治[[精神]]を重視し、一定の緊張感を保った交渉を行っている。同志社大学内では「自治理念」に基づいた寮であるため、学生寮のことを「自治寮」と呼んでいる。「自治寮」という考え方については、[[学生運動]]の流れを汲んでいる。[[昭和昭和時代]]の学生運動が盛んなころ、日本全国の大学には、自主独立の気運が存在、同志社大学の学生寮においてもこのような理念が創出され、自治を重んじる風潮が生まれた。なお、1990年代以降に自治を学生寮と同志社大学の関係は良好である。また、過去には、大学の設置者である[[学校法人同志社]]の理事にも寮出身者が存在しており、2004年においても、理事を招いての式典等が開催された。{|class="wikitable" style="font-size:small"|寮名|性別|定員|使用開始年|所在地|備考|-|{|{{ruby|大成寮|たいせいりょう}}|男|100|style="white-space:nowrap"|1937年|京都市左京区|高商寮として使用開始<ref name="dom">{{PDFlink|https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-1306/102406/file/201813-9.pdf|同志社大学基礎データ集（2018）13－9 寮一覧}}</ref>|-|{|{{ruby|此春寮|ししゅんりょう}}|男|33|style="white-space:nowrap"|1940年|京都市上京区|-|{|{{ruby|社図寮|そうじりょう}}|男|28|style="white-space:nowrap"|1951年|京都市左京区|-|{|{{ruby|暁夕寮|ぎょうせきりょう}}|男|18|style="white-space:nowrap"|1962年|京都市左京区|2部大成寮として独立。1964年に移転とともに暁夕寮へと名称変更<ref name="dom">|-|{|{{ruby|松蔭寮|しょういんりょう}}|女|72|style="white-space:nowrap"|1953年|京都市上京区|-|{|{{ruby|一粒寮|ひとつぶりりょう}}|女|11|style="white-space:nowrap"|1942年|京都市左京区|予科寮として使用開始<ref name="dom"/>|{|画像:150815 Doshisha University Amherst House Kyoto Japan01bs5.jpg|thumb|アーモスト寮のあったアーモスト館。[[ウィリアム・メレル・ヴォーリズ]]の設計で国の登録有形文化財]] これらの寮の他に大学が管理、運営する寮が存在する。リチャーズハウスの用に外国人留学生と日本人学生が共に生活を行う女子寮や、部活が管理する寮、大学が既存の施設の一部、または全部を借り上げているものが存在する。*過去に存在した寮 **アーモスト寮 **アーモストの名は新島襄が留学した米[[アマースト大学|アーモスト（アマースト）大学]]に由来する。約65,000ドルの募金が集められ、1931年8月に着工され、1932年5月に最初の21人が入寮する。2006年度より募集を停止。*{|{{ruby|布哇寮|はわいりょう}} **1936年に日米関係の悪化を憂えたホノルル在住のリチャーズ夫妻によって寄付<ref>http://www.doshisha-alumni.gr.jp/times/200702.html|"The Doshisha Times" 2007年02月15日第619号</ref>された。戦時中は接收され[[日赤]]の看護婦寮にされた歴史もある。また、5年間に亘り同志社理事であった[[新渡戸稲造]]の京都時代の住居でもあった。1970年代は学生運動の渦中にあり、外国人留学生に[[箴城]]された。そのこともあって1972年に寮運営委員会は解散して自治寮になった。1983年に寮が閉鎖され、1997年からは同志社フレンドビースハウス（[[登録有形文化財]]）として生まれ変わった。2018年老朽化および用途変更に伴い解体された。*{|{{ruby|鴨東寮|おうとうりょう}} **{|{{ruby|岩倉寮|いわくらりょう}} **北志寮 ―対外関係――学校法人との協定――学術交流包括協定 **[[京都府立医科大学]]<!-- -->*国内相互留学制度 **[[早稲田大学]]<!-- -->*単位互換制度 **[[同志社女子大学]] **同志社大学にはない音楽系の科目などを取得することが可能。女子だけではなく、男子も取得することが可能で毎年100人程度の学生が取得している。*[[大学コンソーシアム京都]] **[[立命館大学]]（大学院）**[[関西大学]]（大学院）**[[関西学院大学]]（大学院）<!-- -->*[小学校教諭|小学校教諭免許状]]（一種）取得連携プログラム **[[神戸親和女子大学]] **2006年度より結ばれた協定。今まで同志社大学では小学校教諭免許を取得することが不可能であったが、この協定により取得可能になった<ref>https://license.doshisha.ac.jp/elem_school_teachers/elem_school_teachers.html|小学校教諭免許状（一種）取得プログラム |同志社大学 免許資格課程センター]</ref>。<!-- -->*[京都・宗教系大学院連合]]加盟<!-- -->*[全国私立大学FD連携フォーラム]] *2008年に発足させた[[ファカルティ・ディベロップメント]]に関する日本で初の私立大学連携協定。発足当初からの連携校は[[関西大学]]、[[関西学院大学]]、[[慶應義塾大学]]、[[中央大学]]、[[立命館大学]]、[[法政大学]]、[[明治大学]]、[[立教大

学]]、[[早稲田大学]]。<!-- -->*図書館協定**[[早稲田大学]]**[[立命館大学]]**[[龍谷大学]]**[[京都産業大学]]**[[関西大学]]**[[関西学院大学]]**[[大学コンソーシアム京都]]**[[国立情報学研究所]](提携)====海外協定校と留学拠点====2021年9月現在、大学間協定を48ヶ国215大学、学部・研究科間協定を42ヶ国166機関と提携している<ref>
[https://international.doshisha.ac.jp/agreement/overview.html 同志社大学/海外協定大学]</ref>。また概論でも触れられているように、13のリベラル・アーツ・カレッジが1972年に設置したAssociated Kyoto Program(AKP)という機関がある。その他にも、米スタンフォード大学が運営するセンターとしてスタンフォード日本センターがあり、米アイビーリーグの大学など14の大学が、日本文化を学ぶための京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS)の拠点を置くほか、チュービンゲン大学同志社日本研究センターも学内に拠点を設けている。海外拠点は台湾、韓国、チュービンゲン、アメリカのアーモスト大学とイギリスの[[ケンブリッジ大学]]にそれぞれ置かれている<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/international/organization/overseas.html 海外拠点について]</ref>。====その他法人・行政との協定====*[[都市再生機構|UR都市機構]]との連携「[[けいはんな]]知的特区活性化デザインの提案」([[現代的教育ニーズ取組支援プログラム|現代GP]])**[[京田辺市]]南田辺北地区同志社山手*[[京田辺市]]との包括協定(2005年締結)**[[京田辺市]]***教育、文化、福祉の向上、スポーツの振興・発展のための連携***地域産業振興、新産業創出のための連携***人材育成のための連携***まっつくりのための連携***その他必要と認める連携**[[日本学生支援機構]](JASSO)*:2006年より障害学生修学支援ネットワーク事業の拠点校として連携*[[会計大学院|会計大学院協会]]*:同志社大学には会計大学院は設置されていないが、準会員校になっている。*[[医聖会]]*:医聖会[[学研都市病院]]は学研都市キャンパスに隣接しており、理工学部、生命医科学部との包括協定を結んでいる。====高校との協定====*[[滋賀学園中学校・高等学校|滋賀学園高等学校]](2008年度より)*キリスト教系高等学校との教育連携<ref>[https://www.doshisha.ac.jp/management/agreement.html キリスト教系高等学校との教育連携 | 同志社大学の取り組み一覧 | 同志社大学]</ref>*[[近江兄弟社中学校・高等学校|近江兄弟社高等学校]]**[[九州学院中学校・高等学校|九州学院高等学校]]**[[新島学園中学校・高等学校|新島学園高等学校]]**[[東北学院中学校・高等学校|東北学院高等学校]]**[[名古屋中学校・高等学校|名古屋高等学校]]**[[広島女学院中学校・高等学校|広島女学院高等学校]]**[[北陸学院中学校・高等学校|北陸学院高等学校]]====関係校====[[群馬県]]にある[[新島学園中学校・高等学校|新島学園]]は、同志社の創立者である[[新島襄]]の理念に共感した[[湯浅正次]](有田屋当主)が、その理念を基に設立した学校で、理念は共有しているが、[[新島学園中学校・高等学校|新島学園]]を同志社が設立したなどといった関係ではない。しかし、同志社大学への推薦枠を持ち、中学校・高等学校間で交流が行われている。*[[新島学園中学校・高等学校]]**[[新島学園短期大学]]==系列・附属学校==学校法人同志社が設置する諸学校は、大学を頂点とした大学[[附属学校]]の形態を取らず、独立の学校群として位置づけられている。なお、[[同志社小学校]]、[[同志社国際学院初等部・国際部]]に限り、同志社大学の付属校である。*大学**[[同志社女子大学]]*中高一貫校**[[同志社中学校・高等学校]]**[[同志社女子中学校・高等学校]]**[[同志社香里中学校・高等学校]]**[[同志社国際中学校・高等学校]]*小学校**[[同志社小学校]]**[[同志社国際学院初等部・国際部]]*幼稚園**[[同志社幼稚園]]==登場作品==テレビドラマ*[[八重の桜]](2013年、NHK大河ドラマ)―脚注== {{脚注ヘルプ}} == 注釈== {{Notelist2}} == 出典== {{Reflist2}} == 参考文献==<!-- ※記事を書く上で参考とした文献はここでまとめる。文献の提示がない場合はコメントアウトとしておく。--> {{ウィキプロジェクトリンク|大学|[[File:PEducation.png|39px]]}} *同志社五十年史編集委員会『[https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1141454 同志社五十年史]』同志社校友会、1930年 *同志社々々史料編集所『同志社九十年小史』[[学校法人同志社]]、1965年 *同志社社史史料編集所『[https://doshisha.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28604&item_no=1&page_id=13&block_id=100 同志社百年史]』全4巻、学校法人同志社、1979年 *同志社山脈編集委員会編『同志社山脈』[[晃洋書房]]、2003年 *同志社スポーツアトム編集局『同志社から始まる未来』[[宮帯出版社]]、2014年 ==Wiki関係他プロジェクトリンク==<!-- ※Wikipedia以外の姉妹プロジェクトへのリンクはここでまとめる。具体的な姉妹プロジェクトはメインページ参照。--> {{commonscat|Doshisha University}} {{wikibooks|同志社大対策}} ==外部リンク==<!-- ※ここには大学の公式サイトのみ入れる。校友会・保護者会・教職員組合・学生自治会などのサイトは入れない。通常、大学公式サイトは1ドメインになっているはずだが、何らかの理由で大学公式サイトが複数のドメインに分かれている場合は、その理由や背景が関係者以外にも判るように明記した上で追加することが可能である。-->* {{Official|https://www.doshisha.ac.jp/}}** {{Twitter|DoshishaUniv_PR}}(公式、同志社大学広報課)** {{Facebook|doshisha.university}}(公式、同志社大学広報課)** {{YouTube|channel=UCA99I1fOupwXeQUjXvLHB0w}}(公式)** [http://d-live.info/ 課外活動総合WEBサイト「D-Live」](公式、同志社大学学生支援センター)**[https://archives.doshisha.ac.jp/ 同志社社史資料センター]<!-- 全学連携-->{{学校法人同志社}} {{同志社大学}} {{Navboxes|list= {{グローバル30}} {{大学IRコンソーシアム}} {{日本私立大学連盟}} {{全国私立大学FD連携フォーラム}}<!-- 地域連携--> {{大学コンソーシアム京都}} {{京都・宗教系大学院連合}}<!-- 部分連携など-->{{法科大学院}} {{日米研究インスティテュート}} {{臨床心理士指定大学院}} {{大学技術士会連絡協議会}} {{大学不動産連盟}}<!-- 運営形態など--> {{グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク会員}} {{アジア・キリスト教大学協会}} {{共同利用・共同研究拠点}} {{旧制大学}} {{日本の高等商業学校・旧制商科大学}}}} {{Normdaten}} {{デフォルトソート:とうししゃ}} [[Category:同志社大学|*]] [[Category:日本の私立大学]] [[Category:日本のプロテスタント系大学]] [[Category:日本の神学大学]] [[Category:京都府の大学]] [[Category:日本基督教団|とうししゃたいかく]] [[Category:京都府の重要文化財]] [[Category:1920年設立の教育機関]] [[Category:煉瓦]] [[Category:学校記事]] [[Category:関関同立]]</text>

<sha1>9xd454fponqq46xtcq7e6b9z01jbf5v</sha1>

</revision>

</page>

</mediawiki>